SHIMANO



電動丸 3000 BeastMaster

取 扱 説 明 書

このたびは、シマノ電動丸3000ビーストマスターをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

特長



更なるスプールフリーを実現…

A-RB（アンチラストベアリング）。 P27参照

ベアリング表面に高耐蝕性金属をコーティングすることで錆に強くなったA-RBが内蔵され、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。



2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。 P35～36参照

ラインテンション一定の「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。



巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパーII

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。



このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現。



さらに磨きのかかった…

ハイスピード＆ハイパワーを装備。



速巻きボタン採用・スピーディーに巻き上げる…

カラ巻きHiスピード。 P6･23参照

シカケのカラ巻きを高速で行ない、手返しやポイントの移動などで威力を発揮します。



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0（ゼロ）セット。 P24～25参照

シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止。 P28～29参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正。 P26参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



すばやく、正確にタナを狙える…

SLSII（シマノ･ラインプログラム･システム2）**搭載。**

リール本体からローラーをなくしたので、シカケの落下が速くなりました。また、プログラマーを使わずラインデータが入力できます。 P9～19参照



レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…

テクニカルレバー。

P7･35～36参照

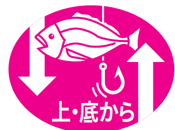


水深をアラームで知らせる…

オート棚メモ。

P30～31参照

棚または底の水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴ります。



カウンター表示を選択できる…

「上からモード」「底からモード」切り替え。

P32～34参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて上（水面）から・底からの水深表示を切り替えることができます。



より速くシカケを落とす…

糸送り機能。

P22参照

探見丸システムを組み合わせれば、
さらに便利に！

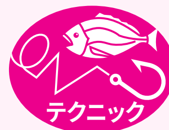


船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P37～55参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。



探見丸と接続すれば、あなたの釣技をリールが再現

テクニックマスター。

P44～52参照

釣人の学習させた「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター（TM）。モータのON/OFFによる入力、手巻操作による入力とも、マイコンによるファジー制御で釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールがそのまま再現します。
また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。



探見丸システム 親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

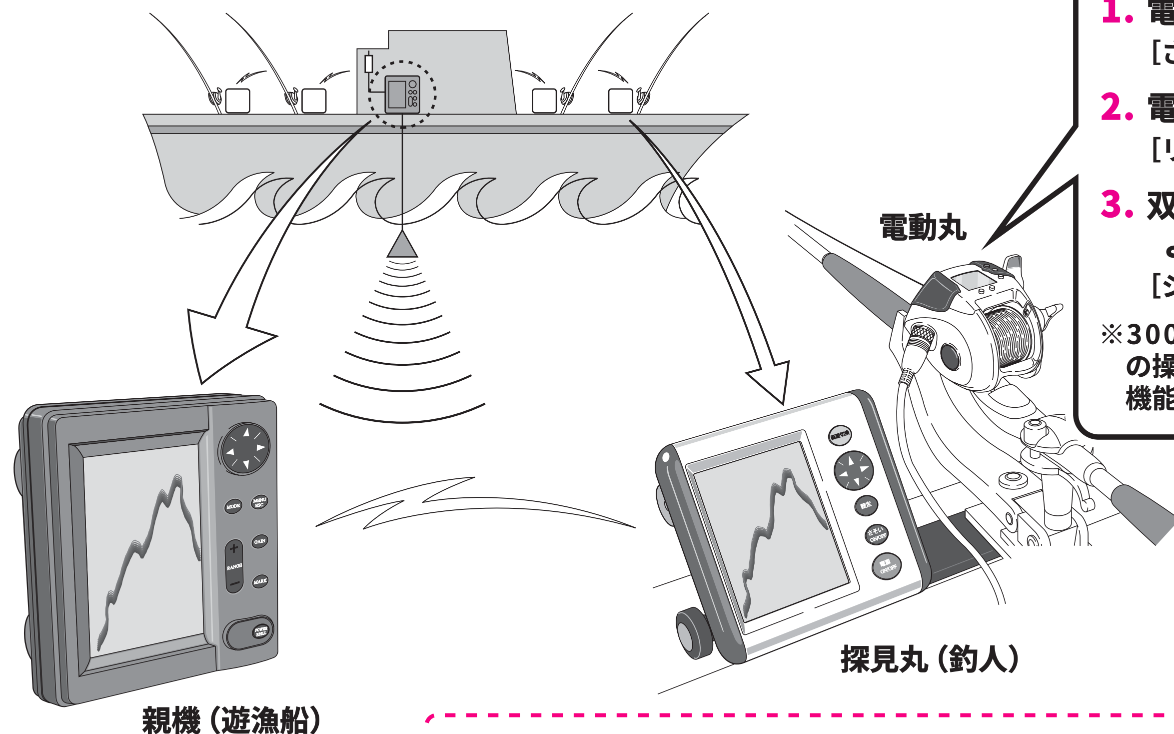
あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。

さらに探見丸システム対応電動丸と組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動丸の操作が探見丸で可能に
   [さそい、棚停止、オートシャクリetc.]
2. 電動丸からのデータを探見丸で表示
   [リール水深、棚タイマーetc.]
3. 双方のデータを組み合わせて
   より便利な情報を表示
   [シカケ軌跡、テクニックマスターetc.]

※3000ビーストマスターでは棚停止･オートシャクリの操作はできません。電動丸の機種によって使える機能は異なります。



電動丸3000ビーストマスターは探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた使用方法について、詳細は37～55ページをご覧下さい。

デジタルカウンターの各部の名称

◎現在の水深
水面からの水深を表示します。
（底からモード時は底からの水深を表示します。）
※水深は10cm単位です。(100m以上は
下図のように1m単位になります。）

999→100

◎底からモード
底からモード時は左側に▶が
点灯します。▶の点灯がない時は
上からモードです。

◎メモリーした水深

◎テクニカルレバーの設定値
巻き上げの力(糸のテンション)
を数字で表示しています。
(数字=kgではありません。)

◎各種表示
学習・下巻：各学習モード時に点灯します。
底（下段）：底からモード時に点灯します。
棚：上からモード時に点灯します。
オート：オート棚セットまたは
オート底セットが有効な時に点灯します。
セット：糸巻学習、0セット等の
受け付け時に点灯します。
B：バッテリーが不足、または電源電圧が
降下したときに点灯します。
さそい：探見丸接続の場合に点灯します。
さそいモード時は「▶さそい」となります。

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

◎自動糸送り機能
シカケをおろす時船べり停止位置より
5m以上で自動的にモーターが空転し
スプールが糸の出る方向に回転
しやすくなります。機能がオフ
の時は左側の▶が消灯します。

Tankenmaru System
▶底 ▶糸送 ▶さそい 学習
8888
下巻
セット (88) オート 棚 B 底 888
メニュー 決定 0セット
メモ
速巻き

■メモボタン


ワンタッチ

現在の水面からの水深を
メモリーします。
底からモードの時には
同時に「◎現在の水深」が
0.0になり、底からの
カウントに変わります。

■速巻きボタン




ワンタッチ

速巻きボタンを
押すと電動リールが
最高速で巻き上がります。
再度押すと止まります。
シカケの回収等に
便利です。

■メニューボタン


ワンタッチ

押すごとに底・糸送の表示が順に点滅に
なり、さらに押すと標準画面に戻ります。
決定ボタンと合わせて使用します。


3秒以上

3秒以上押すことにより速度一定モード
と楽楽モードの切り替えができます。
デジタルカウンターの色で現在のモード
がわかります。
速度一定モード：オレンジ
楽楽モード：緑

■決定/0セットボタン


ワンタッチ

メニューボタンで点滅
表示にした項目のオン/
オフに使用します。


3秒以上

0セットします。
シカケを水面に合わせて
0セットしてください。

速巻きボタン／メニューボタンの操作

速巻きボタン

速巻きボタンを押しますと、高速で一気に巻き上げます。再度押せば止まります。

シカケの回収が高速で行え、手返しやポイントの移動などで威力を発揮します。

※速巻きでの魚とのやりとりはしないでください。高速で巻き上げるためハリス切れを起こしたり、ドラグをゆるめてのやりとりの場合ドラグ焼けを起こします。





本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…





ご注意：本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

メニューボタンの操作

底からモード、自動糸送り機能をオン/オフしたい場合に操作します。

押すごとに底・糸送の表示が順に点滅になり、さらに押すと標準画面に戻ります。変更したい機能が点滅の時に決定ボタンを押せば、オン/オフが切り替わった後、標準画面に戻ります。

標準モード

Tankenmaru System

現在の機能の状態を表しています。左側に▶が点灯している機能は現在オンになっています。図の場合、底からモードはオフ、自動糸送り機能はオンになっています。

実際に釣る場合に使用するモードです。電源ON時はこの状態です。

モータ停止の状態で押すと機能選択画面へ（ワンタッチ）

メニューボタンを押した場合

メニューボタンを押した場合標準モードに戻ります

選択画面-1【底からモード】

点滅

変更しない時はメニューボタンを押して次へ（ワンタッチ）

現状を変更したい場合決定ボタンを押す（ワンタッチ）

設定が変更され標準モードに戻る

図は底からモードがオンに変更された場合です。オフにしたい時は再度同様の操作を行います。

メニューボタンを押した場合

選択画面-2【自動糸送り機能】

点滅

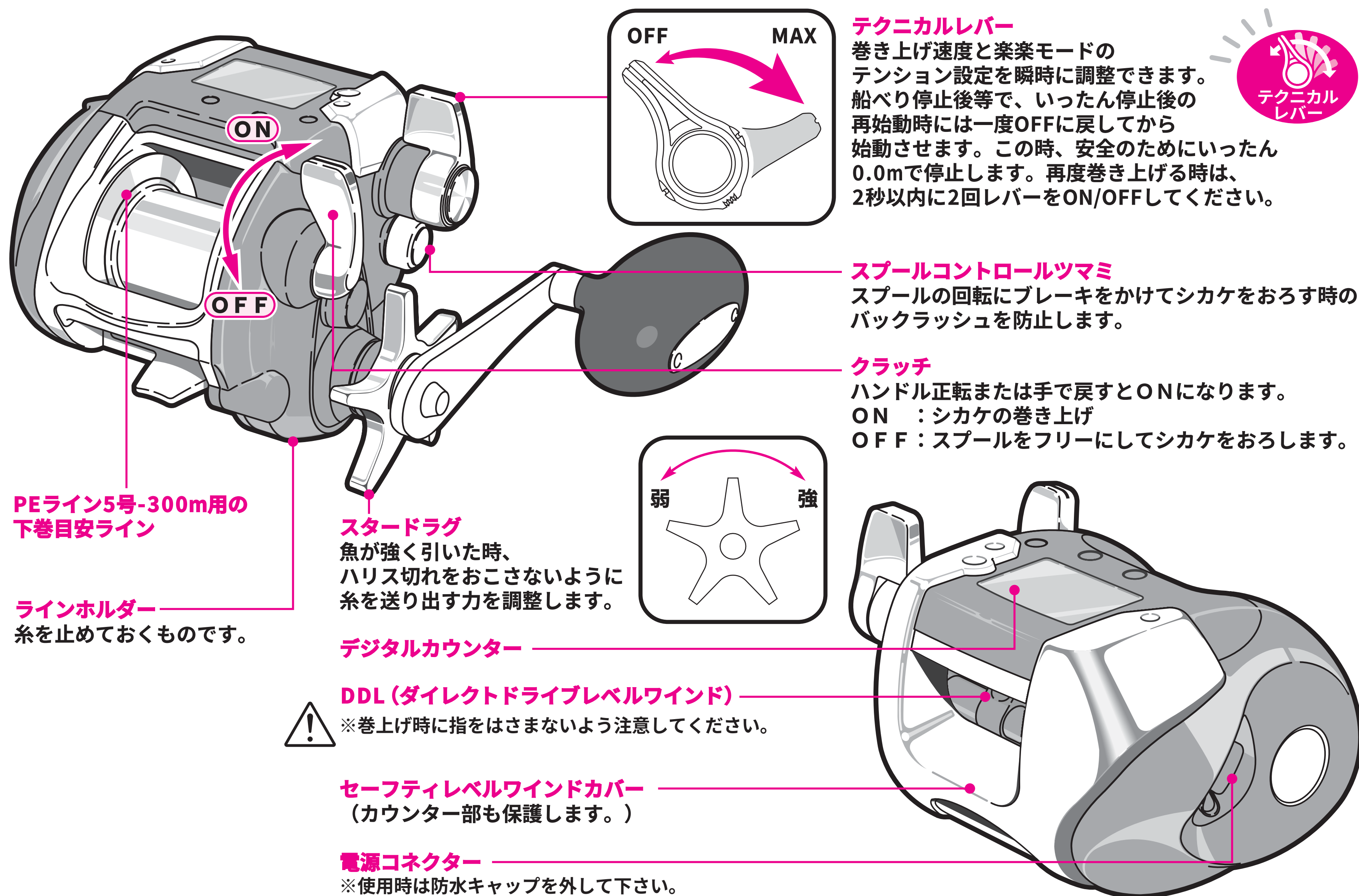
変更しない時はメニューボタンを押して次へ（ワンタッチ）

現状を変更したい場合決定ボタンを押す（ワンタッチ）

設定が変更され標準モードに戻る

図は糸送りが解除された場合です。作動させたい時は再度同様の操作を行います。

各部の名称



テクニカルレバー
巻き上げ速度と楽楽モードのテンション設定を瞬時に調整できます。
船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。この時、安全のためにいったん0.0mで停止します。再度巻き上げる時は、2秒以内に2回レバーをON/OFFしてください。

スプールコントロールツマミ
スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

クラッチ
ハンドル正転または手で戻すとＯＮになります。
ＯＮ　：シカケの巻き上げ
ＯＦＦ：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

PEライン5号-300m用の下巻目安ライン

スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。

ラインホルダー
糸を止めておくものです。

デジタルカウンター

DDL（ダイレクトドライブレベルワインド）
※巻上げ時に指をはさまないよう注意してください。

セーフティレベルワインドカバー
（カウンター部も保護します。）

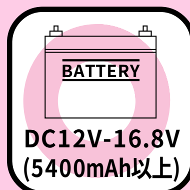
電源コネクター
※使用時は防水キャップを外して下さい。

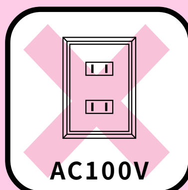
電源とコードについて

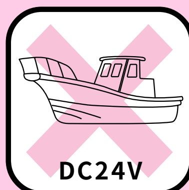
1 お取り扱い上の注意

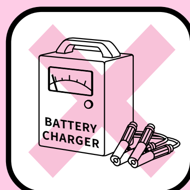
電源について

電源は直流（DC）12Vです。公称電圧が12Vから16.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の直流24Vなど）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。









- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから16.8Vであることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。）また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、バッテリーのみ新しいものをお求めください。

コードについて

電源との接続は、必ず付属のシマノ純正電源コードを用いてください。
探見丸接続時は通信ケーブルをご使用ください。

ご注意：純正以外のコードを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、電源コードは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

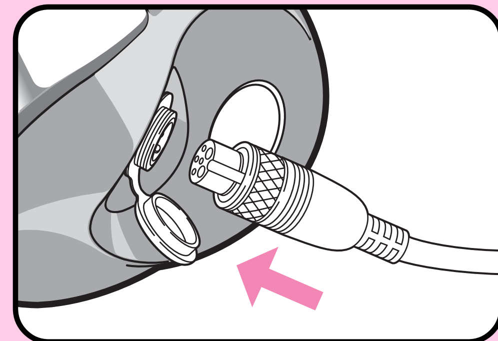
2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属の電源コードを接続してください。

赤クリップを（+）側に、黒クリップを（−）側につないでください。

2 それから、リールと電源コードを接続します。

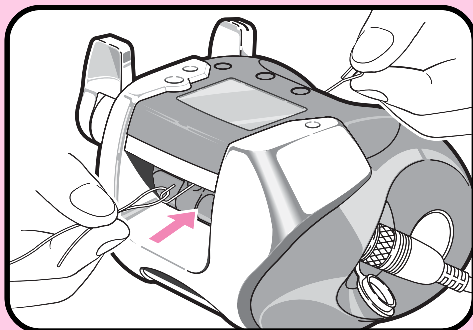
電源コードのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。



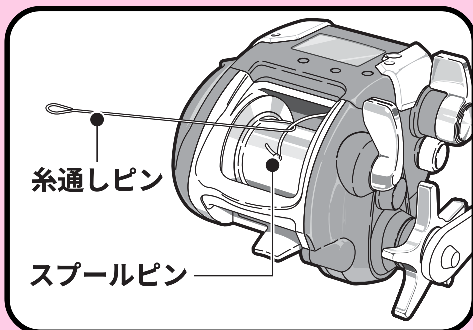
学習方法（使用するラインの実測値をリールに記憶させます。）

糸をセットします。

1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



2 スプールピンに糸を結んでください。



学習方法の選択

まず下記の操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。
それぞれの学習方法については次ページからの説明をご覧ください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
※カウント値が6m以下で操作してください。6.1m以上の時はいったん0セットしてください。

標準モード

実際に釣る場合使用します。
電源ON時はこの状態です。

メモ・速巻きボタン両方同時3秒以上押しで学習モードへ

3秒以上

メニューボタンを押した場合、標準モードに戻ります

学習モード【下巻学習】

下巻をして巻く場合使用します。

点滅

[下巻学習]を選択しない時はメニューボタンを押して次へ

ワンタッチ ワンタッチ

決定ボタンを押すと点灯に変わり[下巻学習]開始

メニューボタンを押した場合

学習モード【普通学習】

マーカで10mがわかる糸を巻く場合使用します。

点滅

[普通学習]を選択しない時はメニューボタンを押して次へ

ワンタッチ ワンタッチ

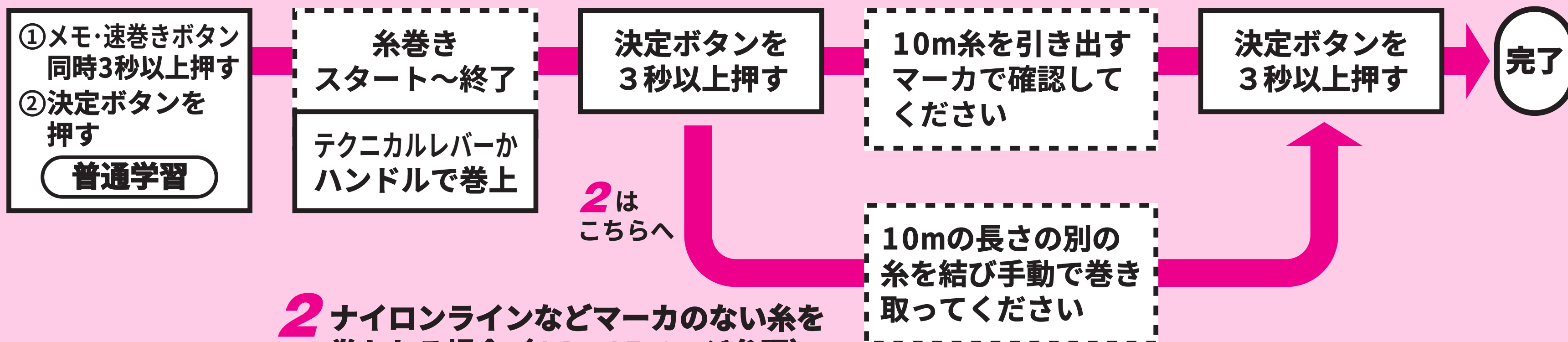
決定ボタンを押すと点灯に変わり[普通学習]開始



糸を巻く前にどのようにするのか、学習の全体の流れをつかんでください。

大きくは下図の 1 ～ 4 までの４通りの学習方法があります。よりくわしい説明はそれぞれのページを参照してください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。

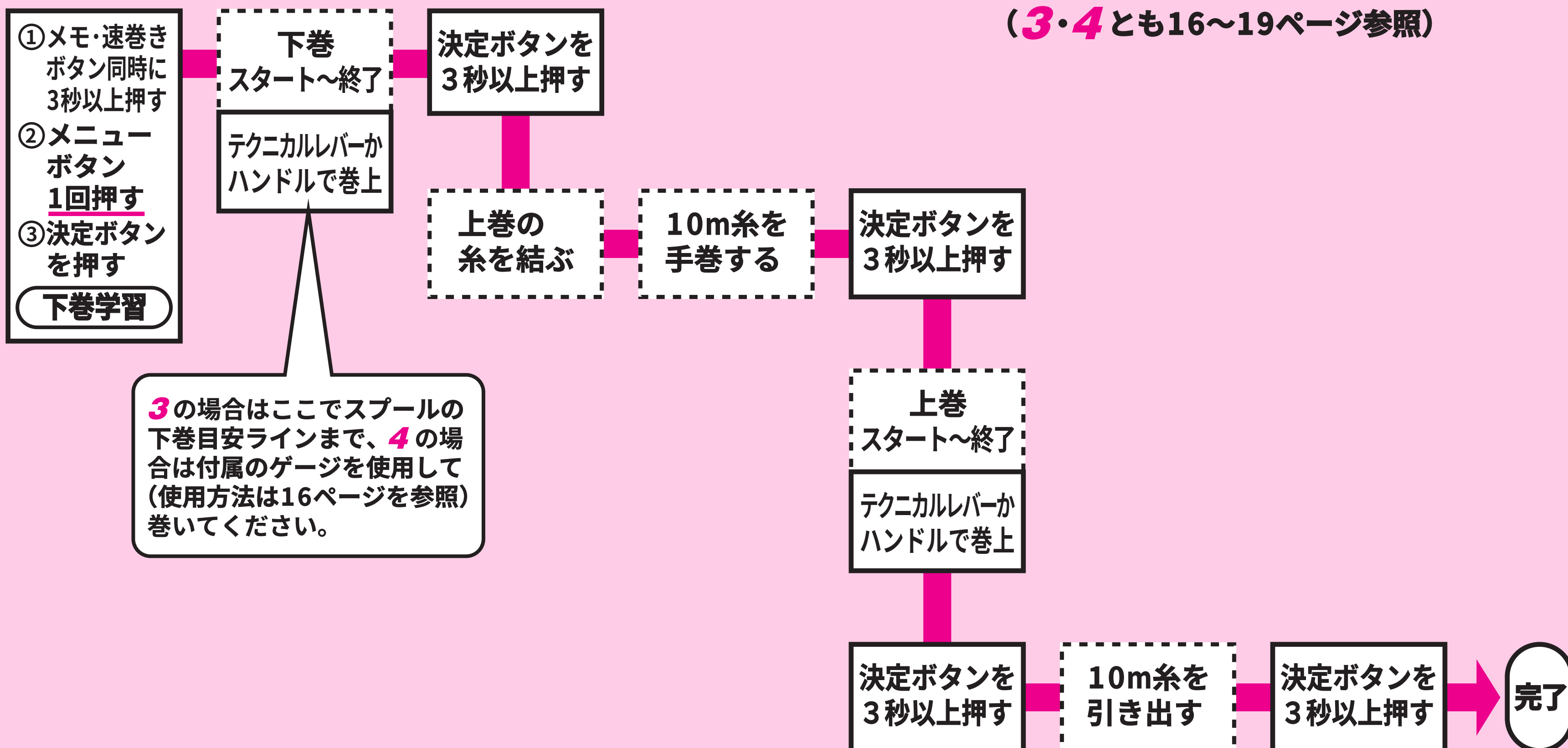


下巻をして巻くなら…

3 PEライン5号300mを巻かれる場合：スプールの下巻目安ラインを使用

4 それ以外の組み合わせを巻かれる場合（PEライン6号200m/4号300m/4号200m/5号200m）：付属ゲージを使用

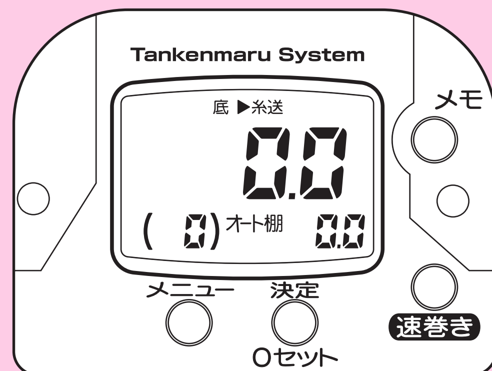
（3・4とも16〜19ページ参照）

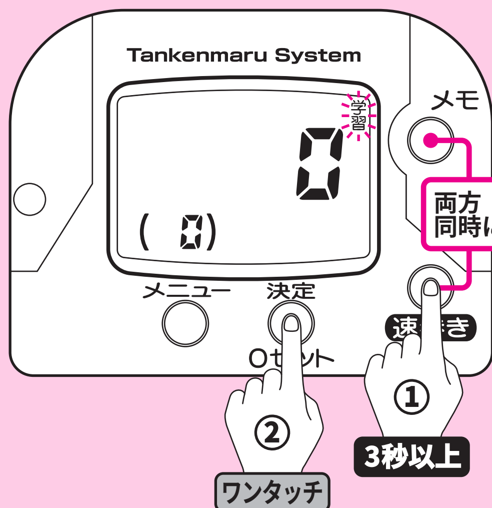




1 メータごとのマーカのある糸を巻かれる場合 →【普通学習】を使用します。

ナイロン糸など（メータのマーカのない糸）を巻かれる場合は14～15ページをごらんください。
下巻を行っての学習も可能です。（学習モード【下巻学習】・16～19ページ参照）







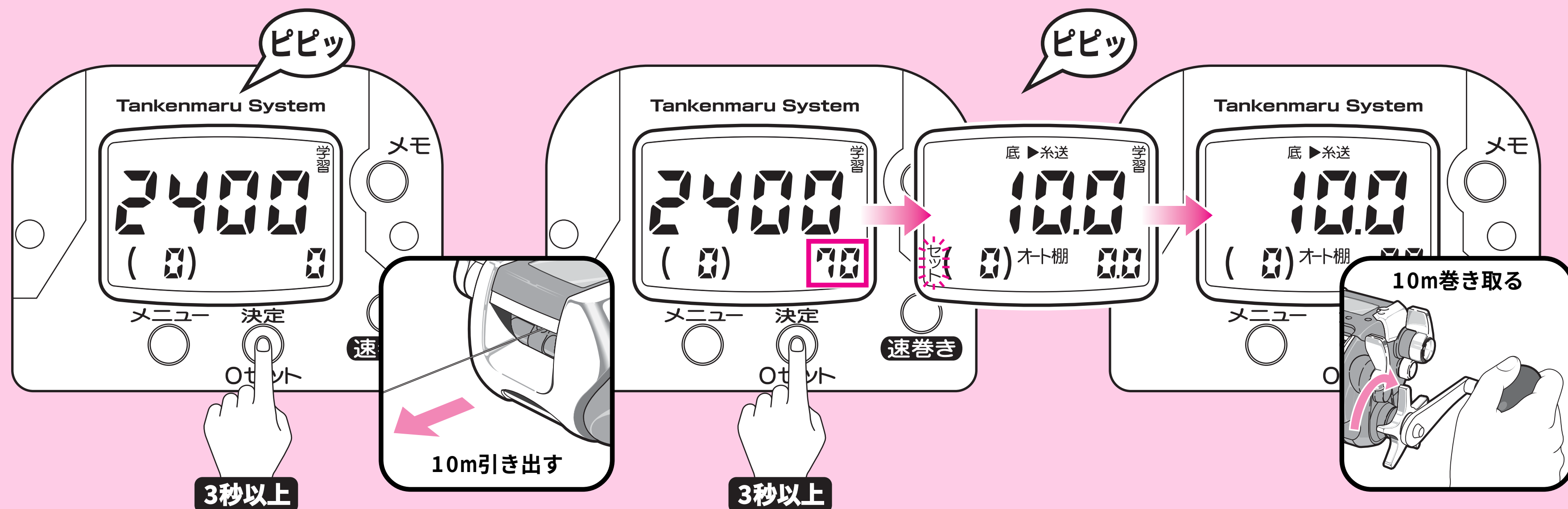


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（24～25ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 メモボタン、速巻きボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定ボタンを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは9ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数が表示されます。
糸巻学習時、速巻きボタンは無効です。
巻き上げのテンションは ( ) 内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



4 糸を完全に巻き終えたら、決定ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。）

5 スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

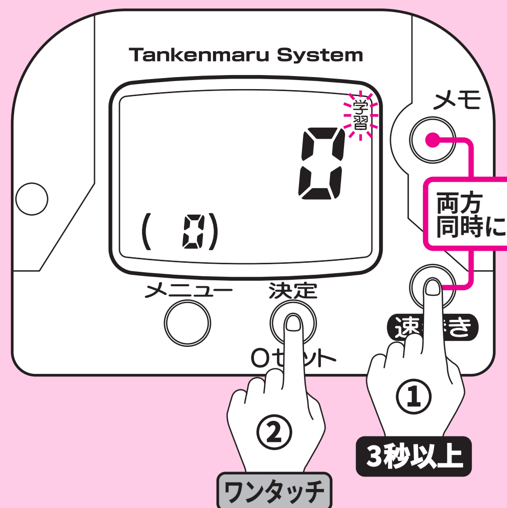
6 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。詳しくは57ページ「ご使用上の注意」をお読みください。

7 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

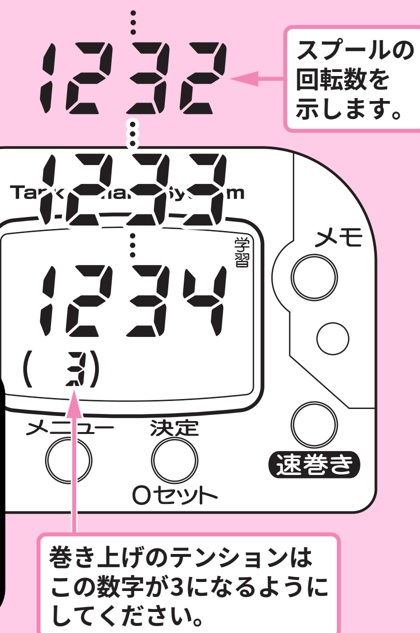


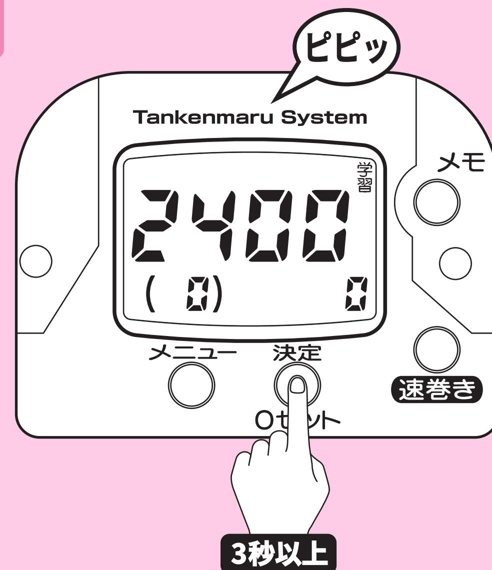
2 ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合

→【普通学習】を使用します。







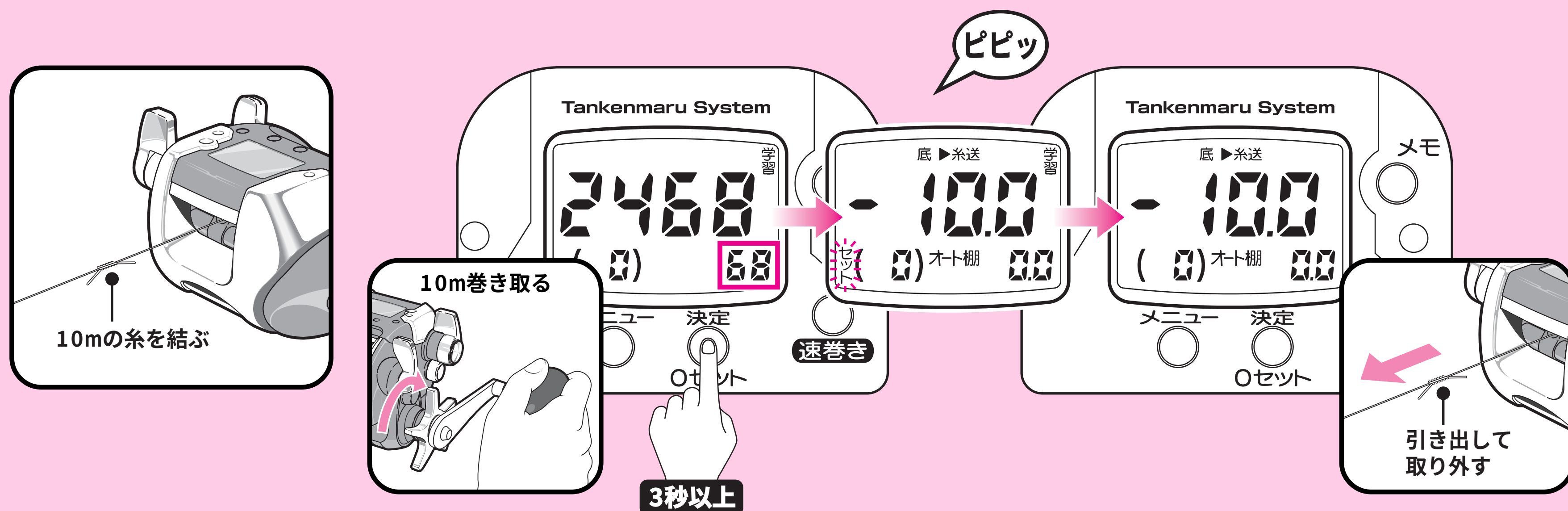


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（24～25ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
メモボタン、速巻きボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定ボタンを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは9ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数が表示されます。
糸巻学習時、速巻きボタンは無効です。
巻き上げのテンションは ( ) 内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

3 糸を完全に巻き終えたら、決定ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



4 巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。

5 結びつけた糸を手巻きで巻き取ります。
スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

6 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。詳しくは57ページ「ご使用上の注意」をお読みください。

7 結びつけた糸を引き出して取りはずしてください。

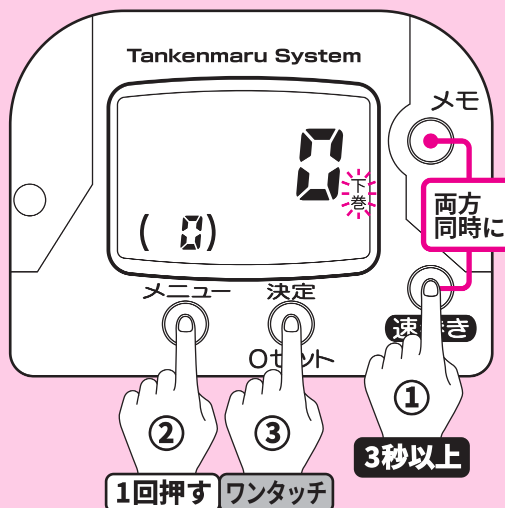
ご注意：ラインは、巻き上げ繰り返しのテンション変化にて誤差が3%以上生じる可能性があります。（詳しくは57ページ「ご使用上の注意」をお読みください。）

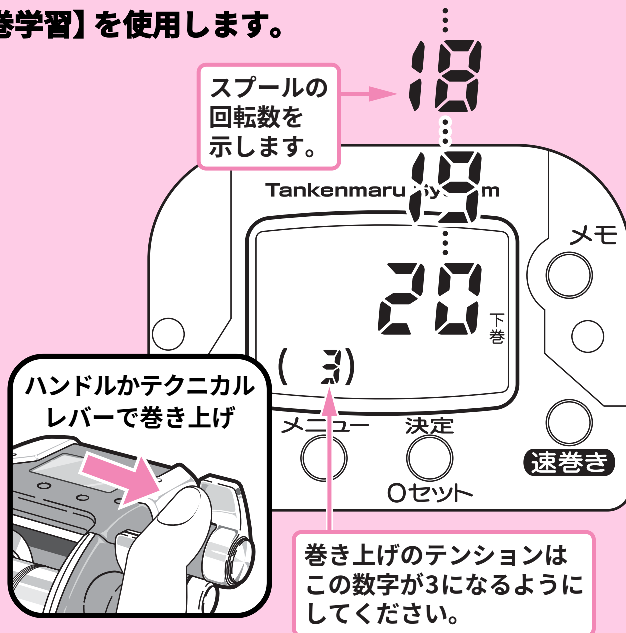


3 PEライン5号300mを巻かれる場合 → スプールの下巻目安ラインと【下巻学習】を使用します。

4 それ以外の組み合わせ（PEライン6号200m/4号300m/4号200m/5号200m）を巻かれる場合

→ 付属ゲージと【下巻学習】を使用します。

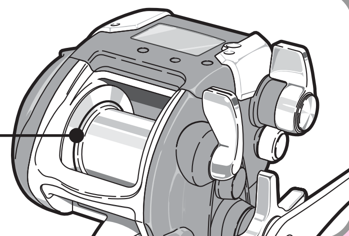




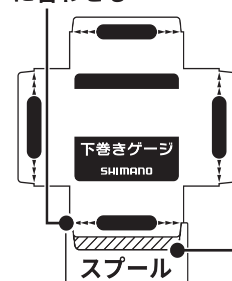
1 カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット（24～25ページ参照）しておきます。メモボタン、速巻きボタンを両方同時に3秒以上押して学習モードに入り、メニューボタンを1回押してください。「下巻」（下巻学習）が点滅し、表示は図のようになります。決定ボタンを押し、下巻学習を決定します。「下巻」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは9ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 右の要領でそれぞれ下巻を行います。
ハンドルかテクニカルレバーで糸を巻いてください。（糸巻学習時、速巻きボタンは無効です。）巻き上げのテンションは ( ) 内の数字が3になるようにしてください。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

3 の場合



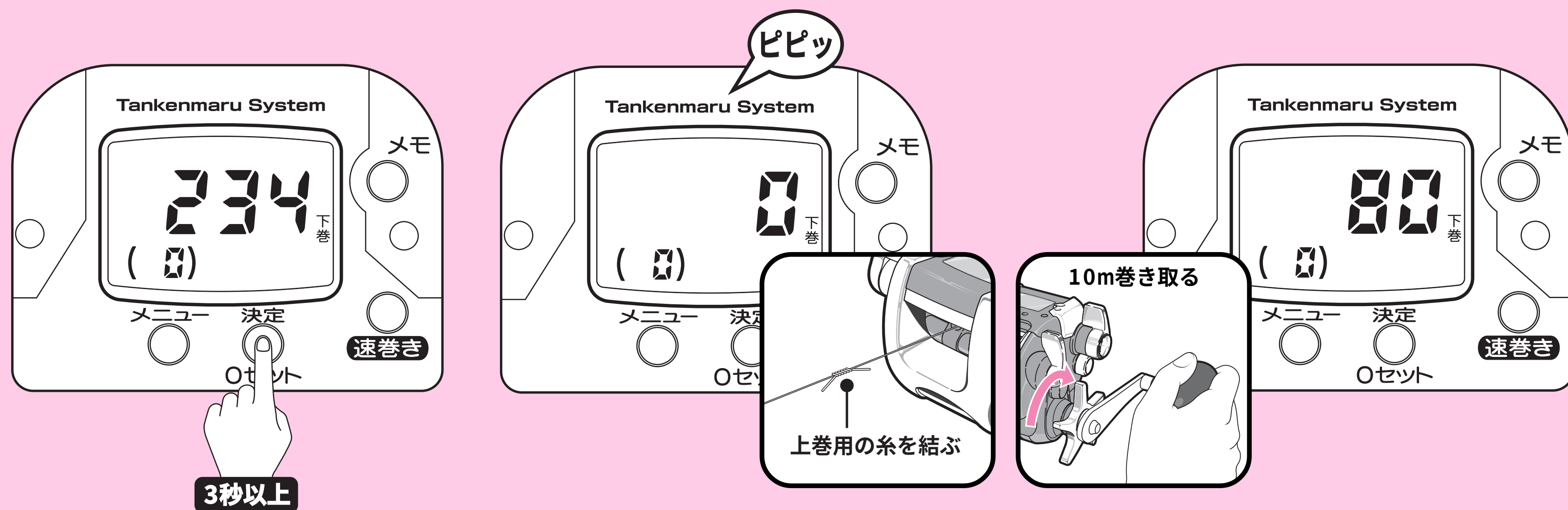
4 の場合



ゲージの使用方法

上図のように付属のゲージをスプールに垂直に差込み､号数マークをスプールの外周に合わせます。スプールとゲージの間にできたすき間(図の斜線部)が下巻をする範囲です｡ゲージに当たるまで下巻をしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



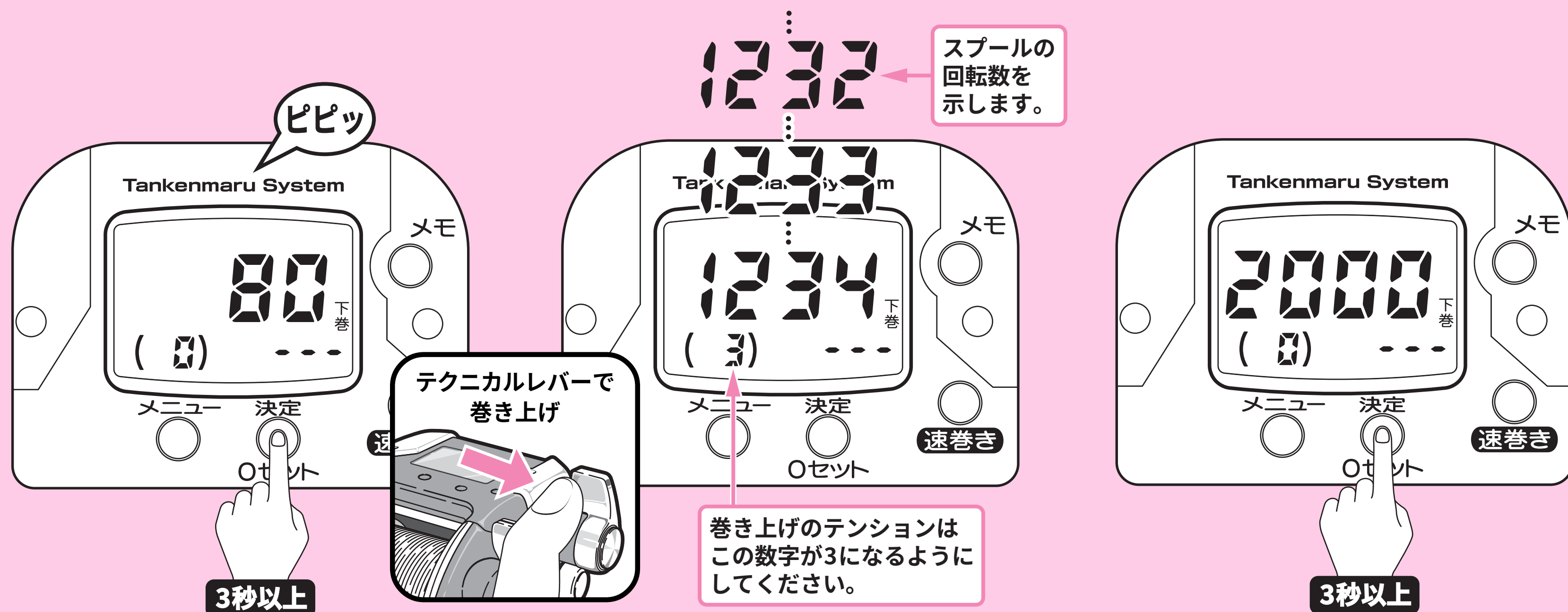
3 下巻を完全に終えたら、決定ボタンを3秒以上押してください。

4 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻糸に上巻用の糸を結びます。

5 上巻糸を正確に10m分手巻きで巻き取ります。
スプールの回転数が表示されます。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

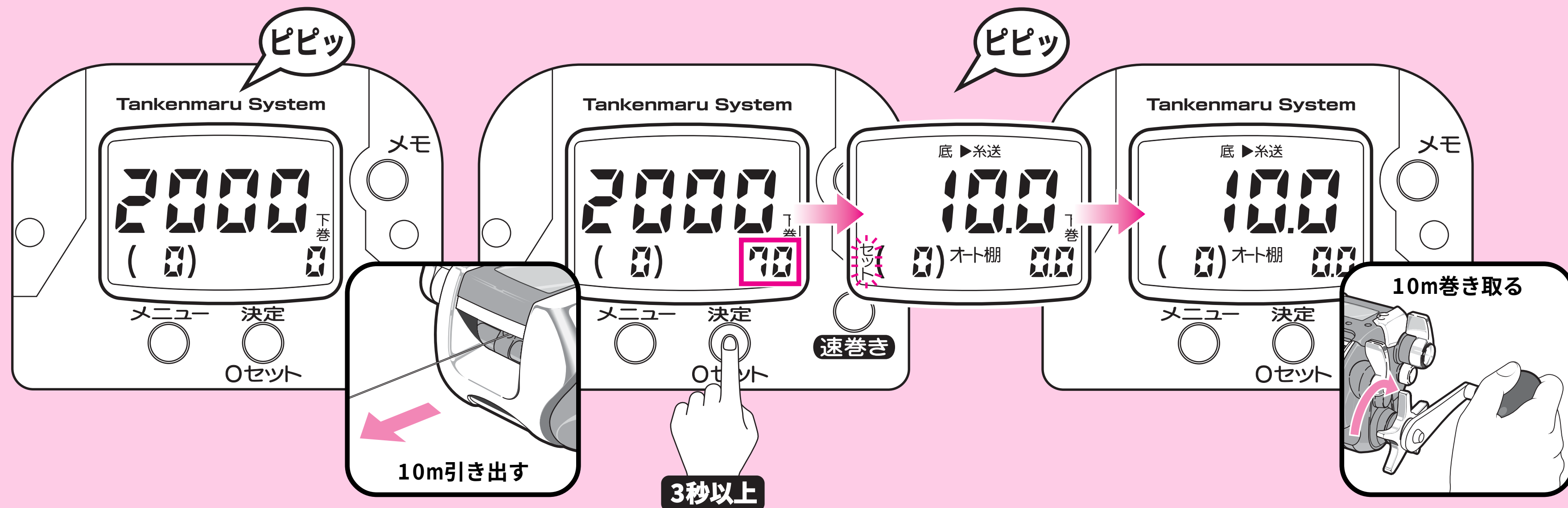


6 決定ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

7 残りの上巻糸を巻き上げます。
テクニカルレバーで糸を巻いてください。
巻き上げのテンションは（ ）内の数字が3になるようにしてください。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

8 糸を完全に巻き終えたら、学習を終了するため、決定ボタンを3秒以上押してください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



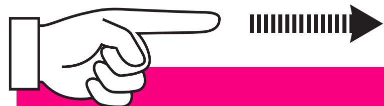
9 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。）

10 スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。糸を取り出してもう一度 **1** からやり直してください。

11 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。詳しくは57ページ「ご使用上の注意」をお読みください。

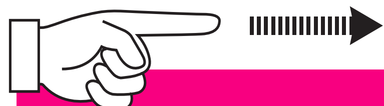
12 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

糸巻学習後の手順（早く、有効に使いこなすために…）



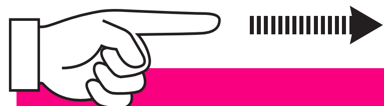
かんたん手順

これさえ知っていれば
とにかく使えます。



べんり手順

簡単で、とっても
便利です。

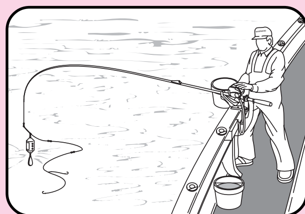


もっともっと べんり手順

知れば知るほどあなたの
釣りの世界が広がります。



0セット



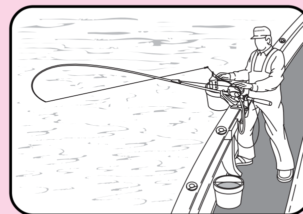
ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。狙った水深に正確にシカケを投入できます。

くわしくはP24〜25へ!!





船べり自動停止



竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しにダンゼン差がつきます。

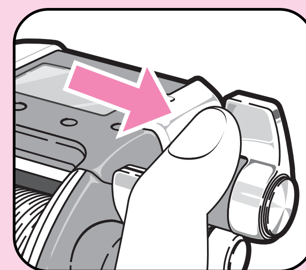
くわしくはP28〜29へ!!







テクニカルレバー



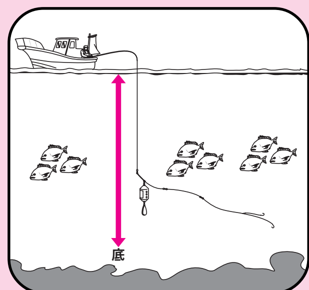
エサの付けかえをするときあるいはアタリがあれば、テクニカルレバーで、らくらく巻き上げ。速巻きボタンを押せば、最高速で巻き上げます。

くわしくはP35〜36･6･23へ!!



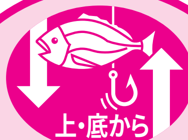


メモ

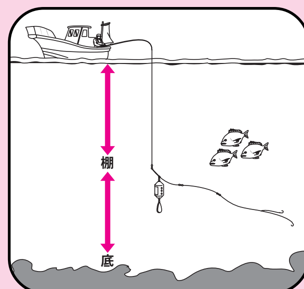


水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴り、底や棚を知らせます。

くわしくはP30～31へ!!



上から・底から モード切替え



釣場、釣り方、対象魚など場合に応じたカウンター表示「上からモード」「底からモード」が切り替え可能。棚の水深が一目でわかります。

くわしくはP32～34へ!!



楽楽・速度一定 モード切替え

スプール回転一定の
速度一定モード



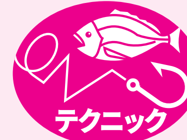
切り替え

ラインテンション一定の
楽楽モード

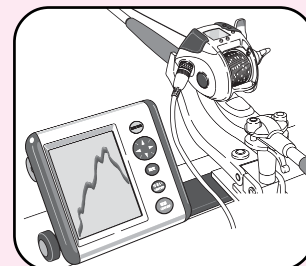
一定のテンションを保って引っ張り合いやシカケのゆるみを防ぐ「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

くわしくはP35～36へ!!



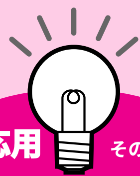


探見丸システム



船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。
シマノテクニックマスターで釣人の「さそい動作」をリールに再現させることも可能です。

くわしくはP37～55へ!!



シカケを速く落すテクニック。

特にイカを狙うときに有効なテクニックです。

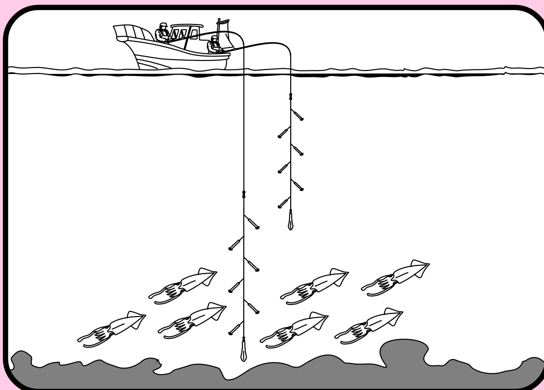
●一般的にはスプールコントロールツマミを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

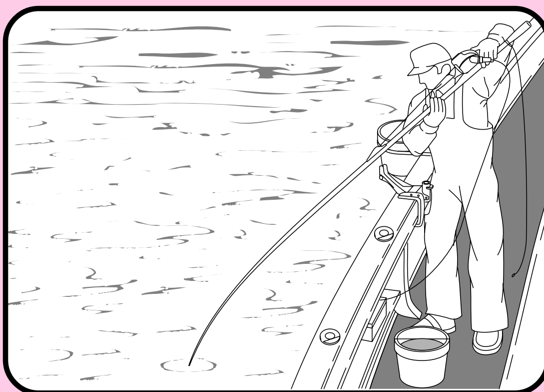
●しかし、より速くシカケを落とすためにはスプールコントロールツマミを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

この他にも次のようなテクニックがあります。

●この電動丸3000ビーストマスターには、自動糸送りの機能が付いています。
シカケを投入して水深が船べり停止位置+5m以上になったら、自動的にモーターがONになります。モーターの回転の反動で、スプールが糸の出る方向に回ります。
クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。
※自動糸送りが作動中はモーターが回転していますのでそのままクラッチをONにすると若干糸を巻き込みますが異常ではありません。

●竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。（右図）



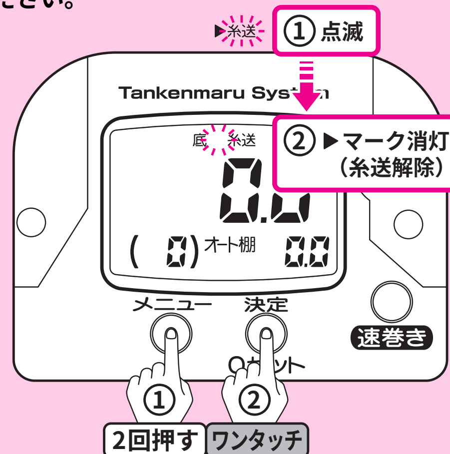


自動糸送り機能を解除する方法

電源を入れたときは自動糸送り機能が作動するようになっています。ガイドの抵抗、バックラッシュなどでこれを解除したいときは下記のような操作をしてください。

1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを2回押します。「糸送」が点滅になります。
2. 決定ボタンを押すと ▶ マークが消灯し、自動糸送りが解除されます。
もう一度作動させたいときは、同様の操作を行ってください。

メニューボタンの操作について、詳しくは6ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。





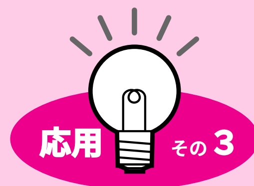
速巻きボタンでスピーディーにシカケを回収するテクニック。

手返しの時やポイントの移動時のシカケのカラ巻きを、スピーディに行なうテクニックです。

●速巻きボタンを押しますと、船べり停止位置まで一気に高速で巻き上げます。再度ボタンを押しても止まります。







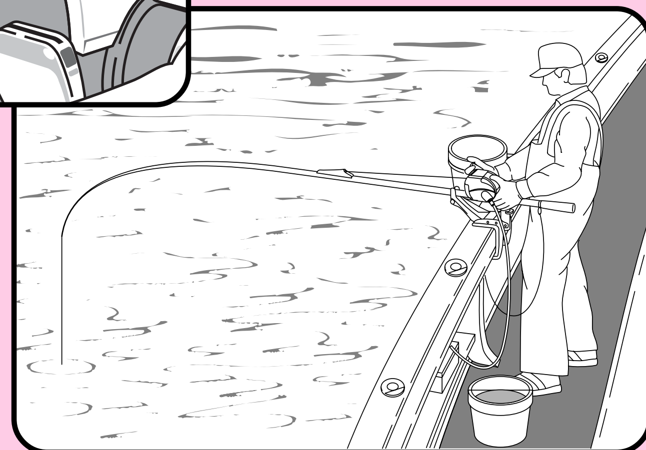
電動+手動でスピーディーにシカケを回収するテクニック。

左記の方法に、手動巻き上げを合わせて行うことでスピーディな巻き上げが可能です。

●速巻きボタンを押してさらに手動で巻き上げると速く巻けます。（この時、ロッドキーパーに竿を取り付けたまま行えば楽です。）





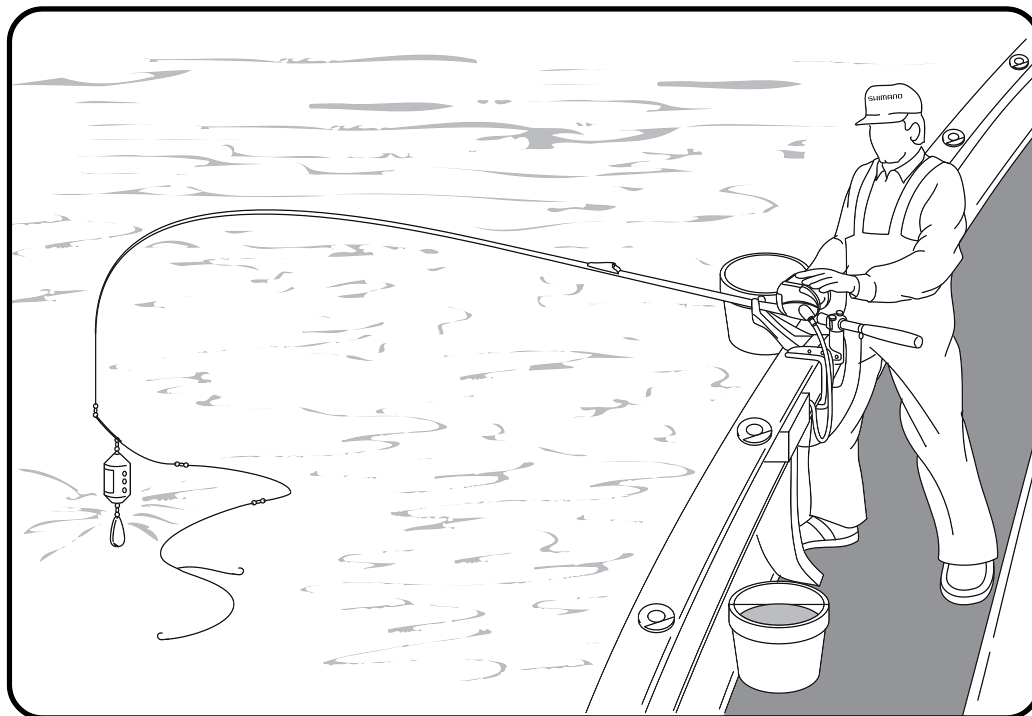


0（ゼロ）セットの設定（釣りを始める前に必ず行なってください。）



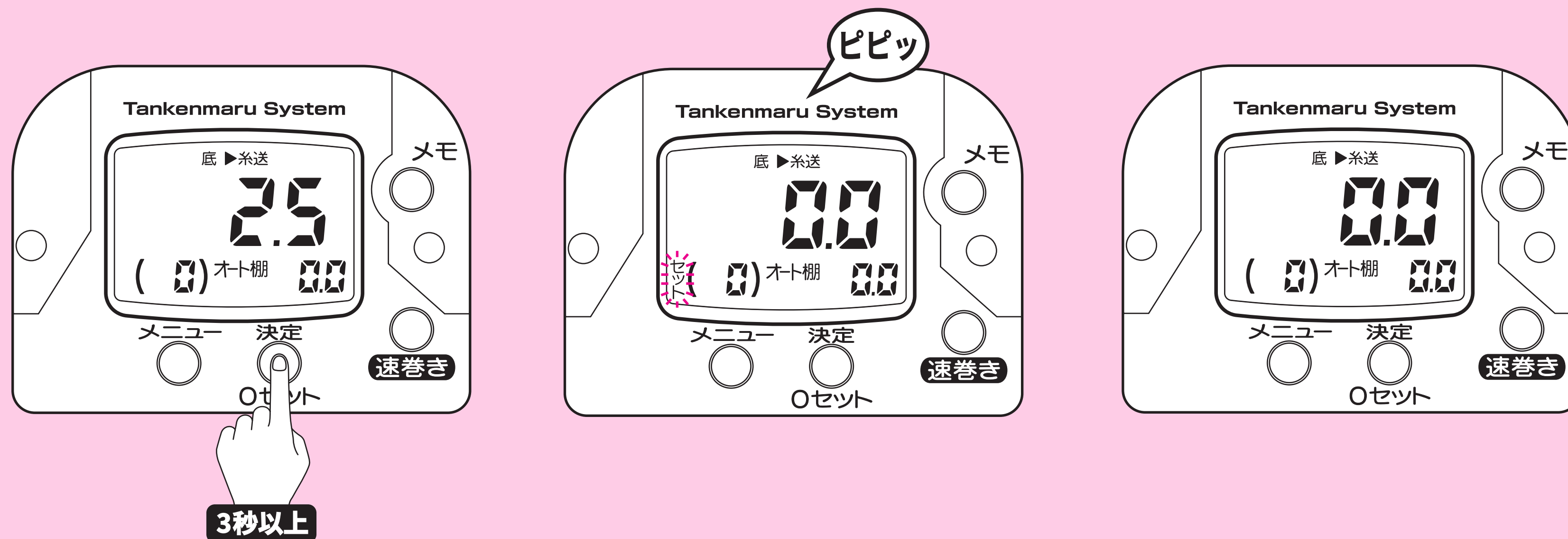
正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。
「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。
「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0セットをしてみましょう。



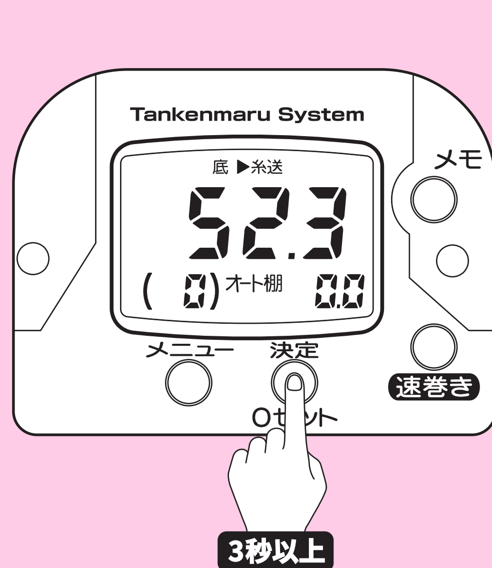
1 シカケを水面に合わせ、０セットボタンを3秒以上押して下さい。

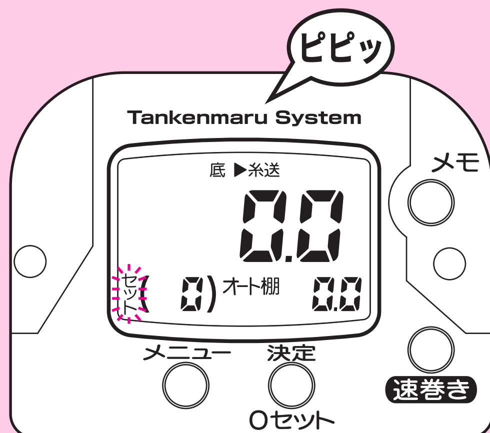
2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。

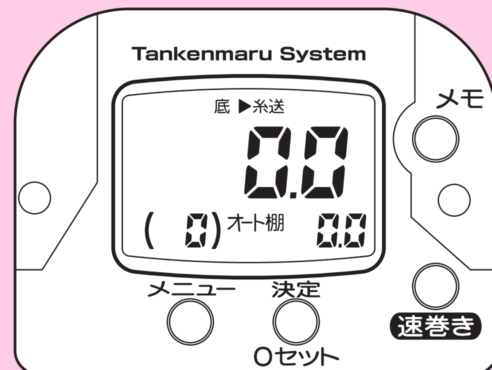
3 これで０セットは完了です。



高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。







1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0セットボタンを3秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。

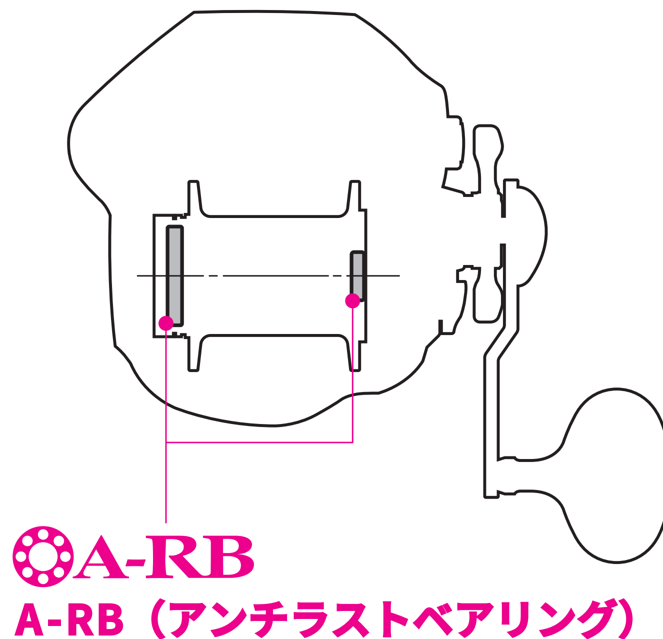
3 これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。
※途中で電源を切った場合はデータの補正はできません。学習をやり直してください。

A-RB（アンチラストベアリング）について



A-RB（アンチラストベアリング）で、さらなるスプールフリーを実現!

ベアリング表面に高耐蝕性金属をコーティングすることで錆に強くなったA-RBが内蔵され、
シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。
それによって電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。
また、完全フカセでよく言われるレベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、
セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。



船べり自動停止について



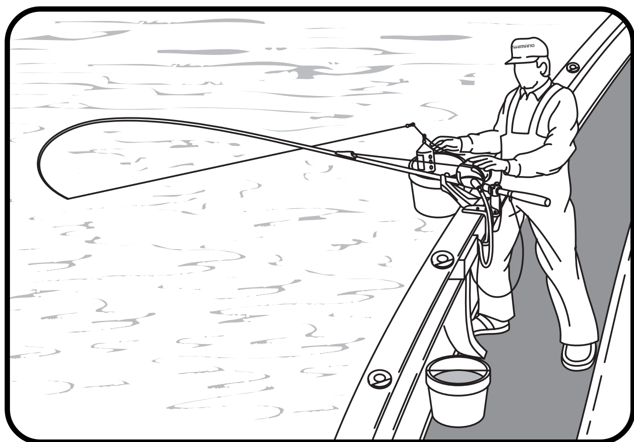
電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。）

●ワンポイントアドバイス

短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズレてしまいます。



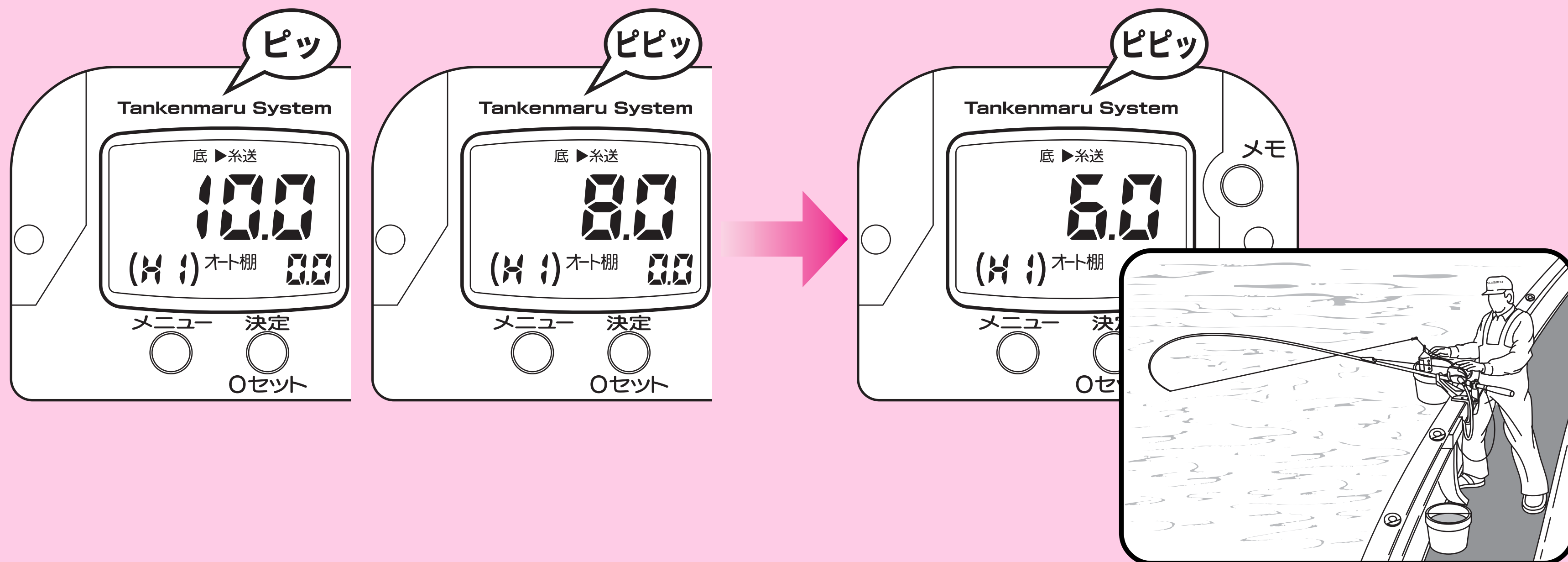
糸巻量誤差による穂先破損のご注意

カウンターの数値と実際の糸の出た長さでは、最大±3%の「誤差」が生じる場合があります。

電動リールに300mの糸を巻き、300m目いっぱいご使用された場合には最大9mの「誤差」が生じる場合が出てきます。
0セットの位置が穂先に近ければ近いほど、この誤差が出た場合にシカケを巻き込み、穂先の破損へとつながる場合がありますのでご注意ください。

＊ライト深場でご使用される場合の裏技！
近年流行ってきているライト深場でご使用される場合、300m前後でのご使用がメインとなってきます。この場合、誤差は9mと大きく、糸に掛かるテンションもめまぐるしく変化します。ご使用される竿も深場専用の竿ではなく、イカ竿等穂先の繊細な竿となりますので、電動リールをそのままでご使用されますと、シカケを巻き込んで穂先の破損となる可能性が非常に高くなります。
そこで、裏技の登場です。まず、ご使用される竿に電動リールを取り付け、竿に糸を通します。通した糸にスナップサルカン等を結んでもらい、10m程度糸を出した状態にし、その後、電動リールに電源ケーブルを接続します。
そうしますと、電動リールのカウンターは0.0mとなっておりますが、実際は10m出た状態となります。電動リールの糸巻学習をちょっとごまかす手法です。この方法で0セットを行わなければ糸巻学習自体に狂いは出ませんので、次回実釣でご使用される際にはそのままでご使用されても何ら問題はありません。
（この裏技でご使用の場合は絶対に0セットを行わないでください。次回の実釣の際、余りに誤差が大きい場合はお手数ですが再度糸巻学習を行ってください。）

船べり自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



1 セットされている船べり自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図は速巻きボタンで巻き上げた場合の表示です。

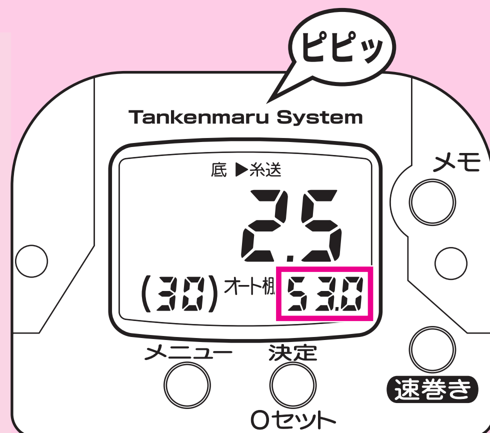
2 船べり自動停止位置（この場合は6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法



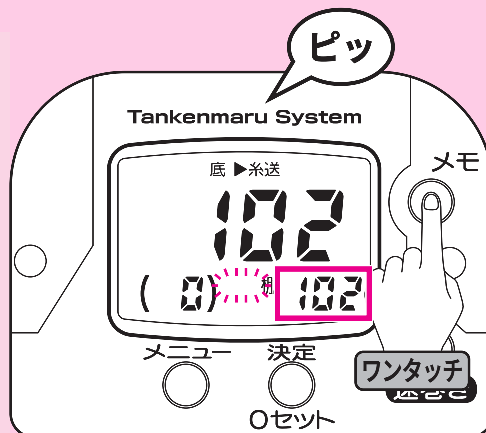
メモリーした水深の4m手前からアラームでお知らせします。

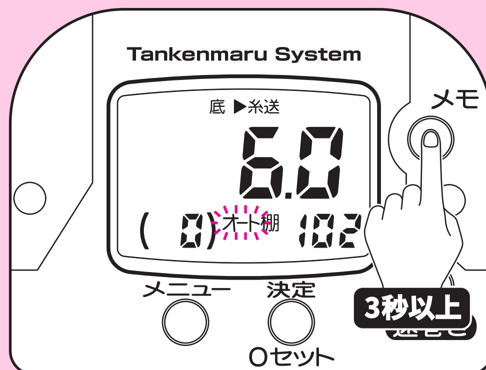
オート棚メモ



シカケが6秒以上停止していた水深（6.1m以上の場合）は、棚として自動的にメモリーされ、船べり停止時に画面右下に表示します。（□部分）
複数あれば一番最後の水深、6秒未満停止の場合は最も深かった水深をメモリーします。
図は上からモードの場合の表示です。
カウンター内の数値は例です。

手動棚メモ





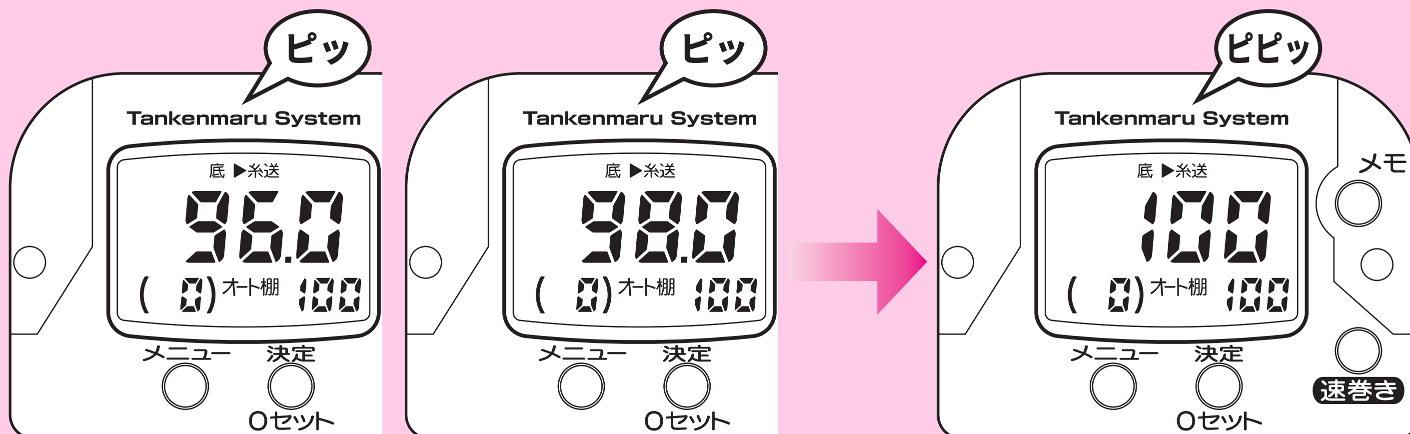
シカケをメモリーしたい水深（6.1m以上）に合わせ、メモボタンを押します。
「オート」の表示が消え、上図ですと102mの水深がメモリーされます。（□部分）
底からモードの場合、同時に現在の水深が0.0mになります。
このセットは何回でも入れ換えが可能です。

手動棚メモの解除方法

船べり停止時にメモボタンを3秒以上押してください。
「オート」が表示され、オート棚セット機能が復活します。

（1日以上、電源を入れずに放置すればメモ欄は0になります。）

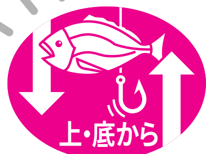
シカケがメモ水深にくると「メモアラーム」によって知らせてくれます。



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

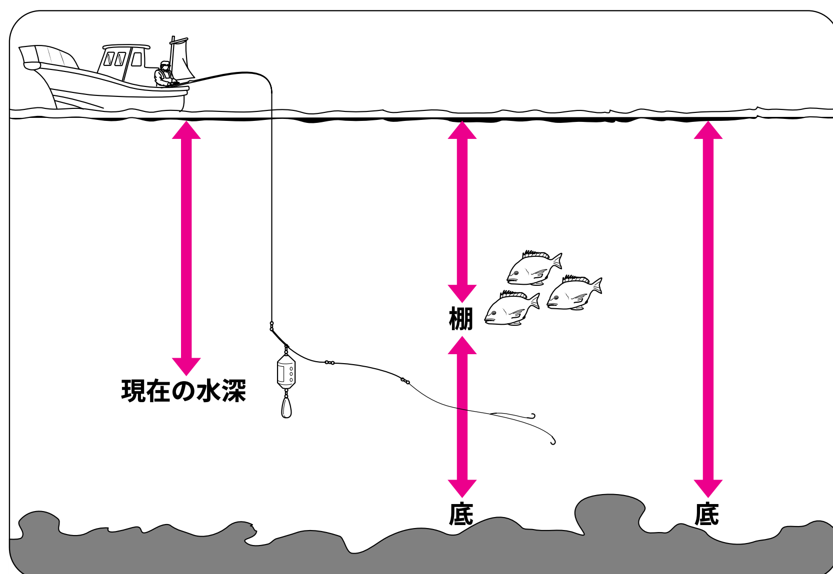
2 メモ水深（この場合は100m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。1回の上げ下ろしにつきアラームは１回のみです。
いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

２通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。
通常、船長がこの棚を教えてくれます。
この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。
NEW電動丸3000ビーストマスターは、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と、底から棚をとるのに便利な「底からモード」の２つのモードを備えています。
その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。



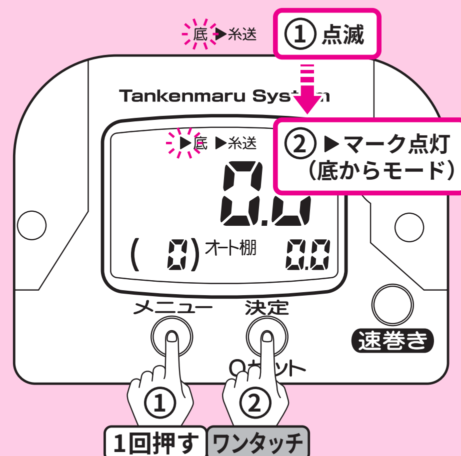
モードを切り替えるには…

電源を入れたときは上からモードになっています。モードを変更したいときは下記の操作を行ってください。

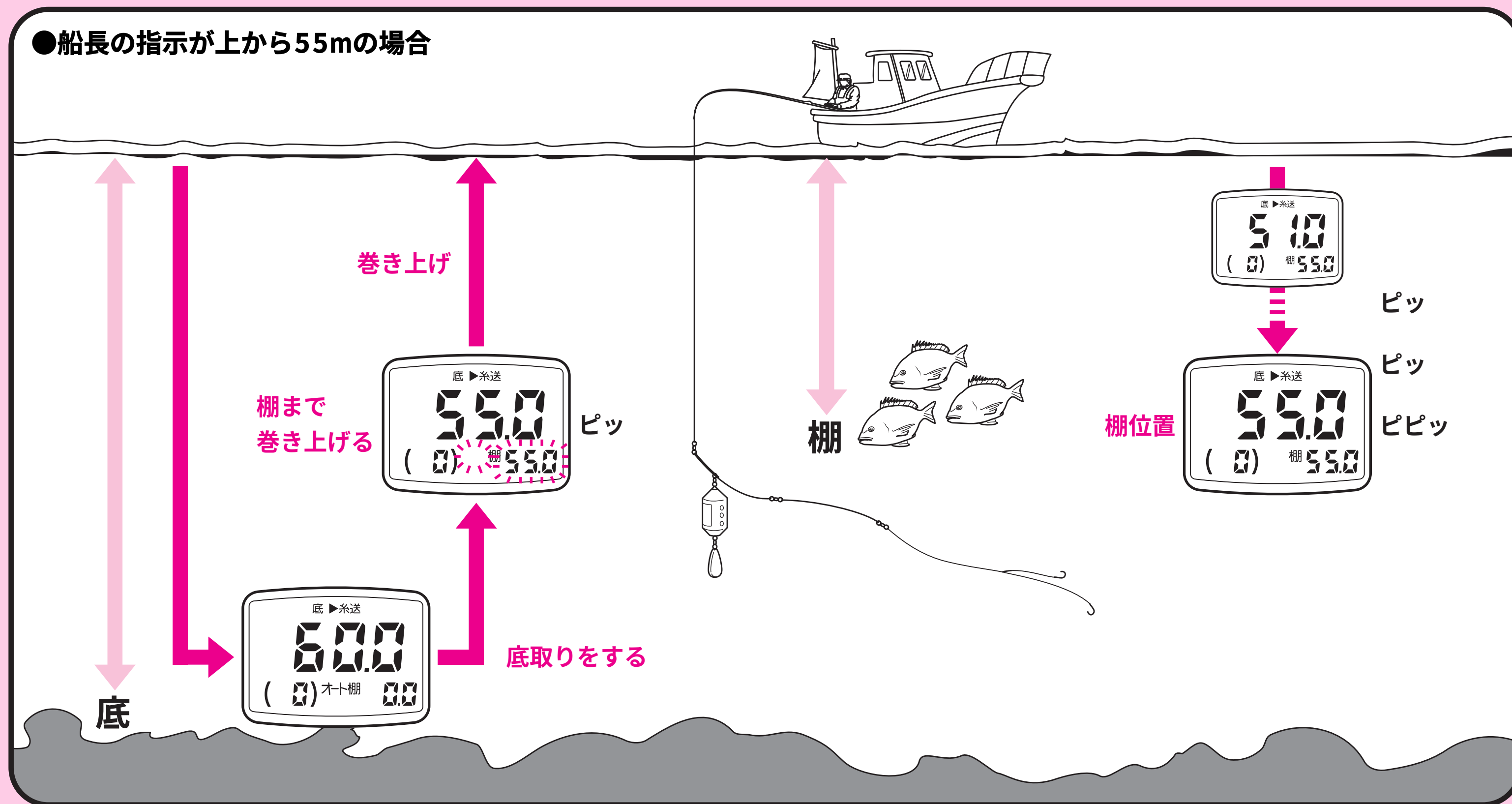
1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを1回押します。
「底」が点滅になります。

2. 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、底からモードになります。
上からモードに戻したいときは、同様の操作を行ってください。

メニューボタンの操作について、詳しくは6ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。



上からモードの実釣編



1 シカケをいったん底につけます。

2 シカケを巻いて棚に持ってきます。
メモボタンを押して棚をメモリーします。
以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。

3 再度投入した際「メモアラーム」によって、シカケがメモリーした水深にきたことを知らせてくれます。

次ページにつづく

底からモードの実釣編

●船長の指示が底から2mの場合

初回の投入

※シカケをおろす時は上からの水深を表示しています。

1

指示されたm数巻き上げる

巻き上げ

ピピッ
ピッ
ピッ

残りの水深が10m以下になると自動的に上からの水深表示に切り替わり、船べりで巻き上げを止める目安になります。

2 シカケを巻いて棚に持ってきます。

棚

再投入

ピッ
ピッ
ピピッ

56.7（前回の底）

3 再投入して底につけ、メモボタンを押します。

●上からの水深59.7がメモリーされます。

●同時に現在の水深が0.0になります。

棚の水深まで巻き上げる

底

1 シカケをいったん底につけ、メモボタンを押します。

●上からの水深がメモリーされます。

●同時に現在の水深が0.0になります。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深を表すようになります。

解説！

船長の指示が「底から何m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示されたm数だけシカケを上げます。（通常この時にコマセを振ります。）



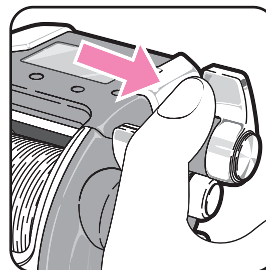
1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

●メニューボタンを3秒以上押すことにより、速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。（右図）
デジタルカウンターの色で現在のモードがわかります。
速度一定モード：オレンジ
楽楽モード：緑

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物が大きくなろうが小さくなろうが、つまりリールにかかる負荷が大きくても小さくても、モーターが調整して設定された速度※を一定に保って巻き上げます。
（※速度→電動リールのスプール回転速度）



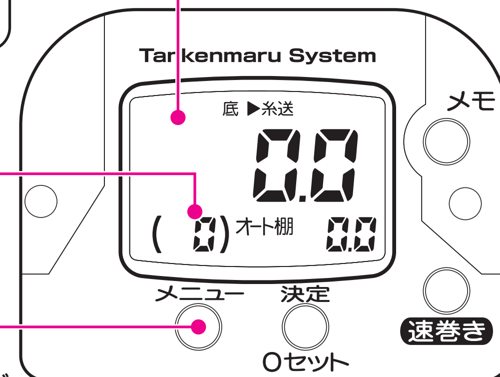


■テクニカルレバー
速度一定モードまたは楽楽モードの設定を行います。

◎デジタルカウンターの色
速度一定モード：オレンジ
楽楽モード：緑

テクニカルレバー位置を表示します。

■メニューボタン
3秒以上押すことにより速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。



次ページにつづく

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、つねに一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり船が急に持ち上がったりしたときの急なテンションの上昇に応じてモータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなってシカケにたるみができない。
これなら楽だし、手巻き感覚で安心です!	

さらにこんなメリットも…

●活きエサを除くすべての釣りをカバー。
テンションの軽いシカケ回収の際には、ほぼ最高速で巻き上げてくるため、電動の速度調整がいらず非常に簡単便利。

●テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。

●電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

楽楽モードの設定方法



●テクニカルレバーで設定します。（前ページ図参照）
巻き上げ設定は全部で30段階設定できるようになっています。
テクニカルレバーの設定値はカウンターに表示されます。

●設定値1～30の中で1～4におきましては速度一定モードが入っておりますので「スローなさそいをしたい!」という場合は1～4を使われると非常に便利です。

●また、5～30は楽楽モードになっておりますので、魚とのやりとりには最適です。

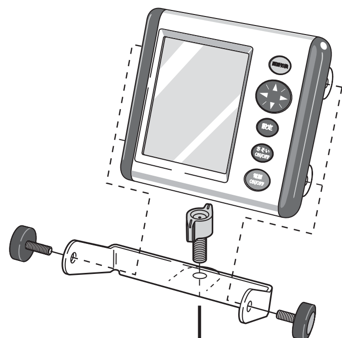


探見丸の設置方法は釣りのスタイルに応じてお選びいただけます。

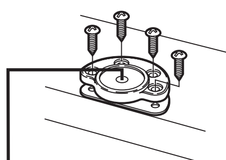
目的に合わせて、下記の取り付け器具・コードを選んでご使用ください。

探見丸システム設置方法

探見丸セット

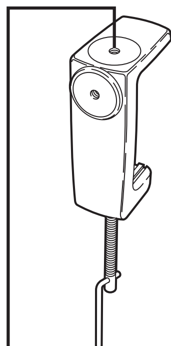


① 探見丸船べりベース
船宿様貸し出し
orマイボート
位置固定直付け

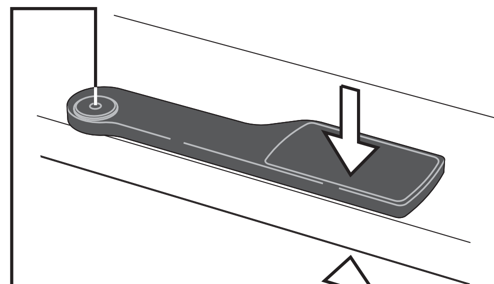


パッキンと共に
船べりにネジで
固定

② 探見丸固定クランプ
ジギングやカワハギ釣りに

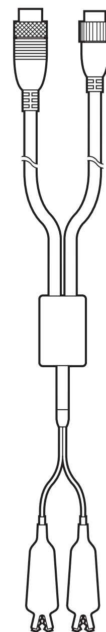


③ 探見丸サイドボード
市販のロッドキーパーを
使って固定



ロッドキーパーで
船縁に挟み込みます。

探見丸・電動丸通信ケーブル



DC12V

●必要に応じて、コード・取り付け器具を別途お買い求めください。

探見丸システム　電動丸接続時の魚探画面と操作ボタン

リール水深表示
（電動丸カウンター表示水深）

親機からの通信が
届いている場合に
点灯します。

棚タイマー（1秒単位）

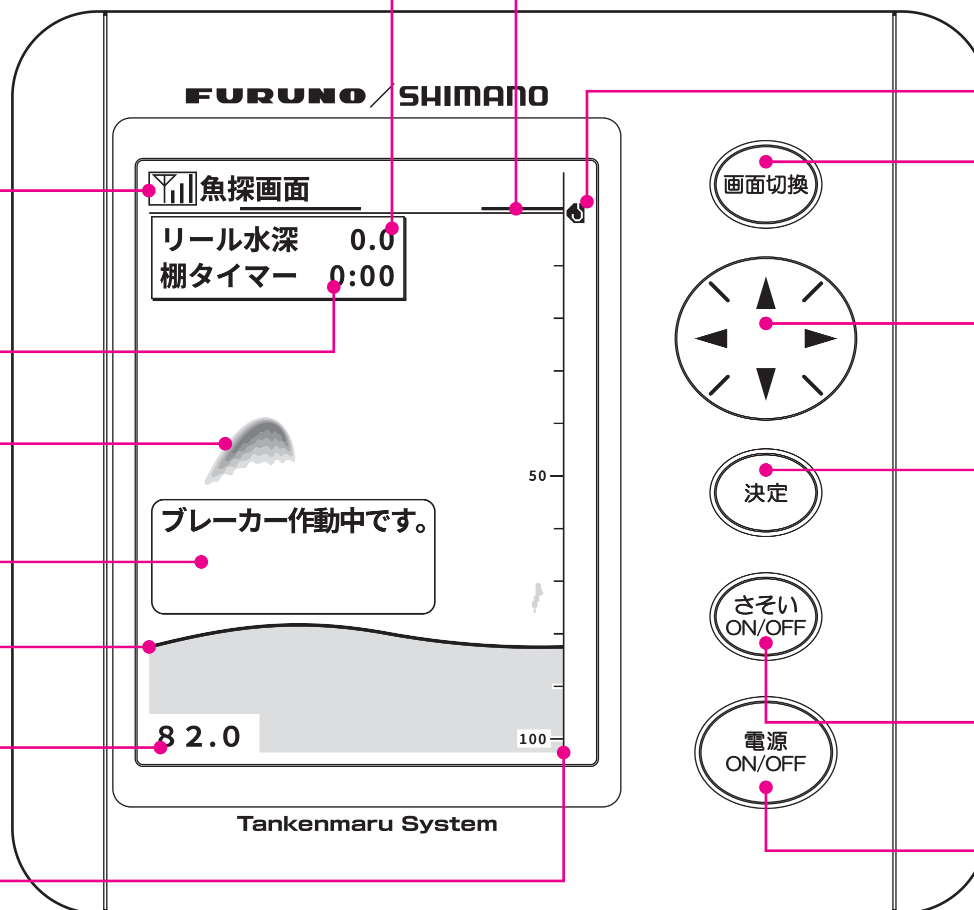
魚群

補助説明ウィンドウ

海底

深度（海底水深）

深度目盛



分時マーク
（1分ごとに2色表示）
1分

シカケマーク

魚探画面と
メニュー画面を
切り換えます。

メニューの
選択カーソル移動に
用います。

①選択したメニューの
設定を実行します。
②シカケ位置補正
設定時に、底取を
行った時点で押します。

さそいの開始/停止を
行います。

電源のON/OFFを
行います。
ONする時は1秒以上、
OFFする時は2秒以上
押してください。

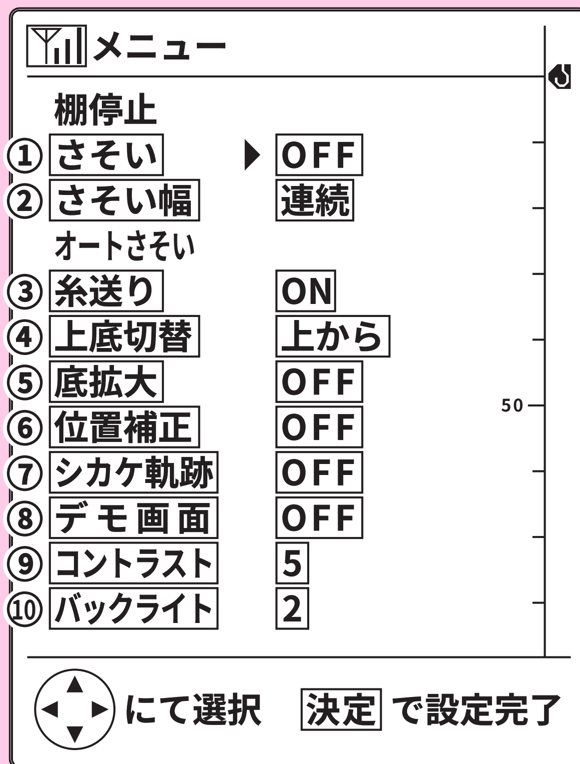
探見丸システム　電動丸と接続した場合の機能一覧

電動丸3000ビーストマスターと接続した場合、下記の機能が探見丸で使用可能になります。

全てメニュー画面から設定を行います。メニュー画面の詳しい操作は次のページをご覧下さい。

《メニュー画面》

画面切換ボタンを押すと表示されます。



□囲みが現在使用可能な機能とその設定です。
電動丸の機種によって使える機能は異なります。
図の設定は例として表示しています。

①[さそい]…

電動丸にさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。（44〜48ページ参照）

②[さそい幅]…

さそい動作を行う幅の指定ができます。（49ページ参照）

③[糸送り]…

探見丸から自動糸送り機能の[ON]・[OFF]が操作可能です。（自動糸送り機能の詳細は22ページ参照）

④[上底切替]…

探見丸から水深表示の[上から]（水面から）・[底から]を設定できます。（上から・底からモードの詳細は32〜34ページ参照）

⑤[底拡大]…

魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大表示します。（55ページ参照）

⑥[位置補正]…

シカケの位置と画面を同調させます。（53〜54ページ参照）

⑦[シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。（42〜43ページ参照）

⑧[デモ画面]…

[ON]にするとデモ画面をご覧いただけます。

⑨[コントラスト]…

探見丸の液晶画面のコントラストを調整します。（10段階）

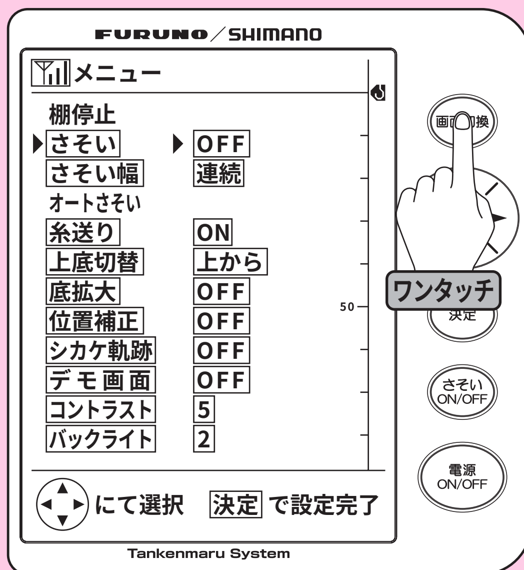
⑩[バックライト]…

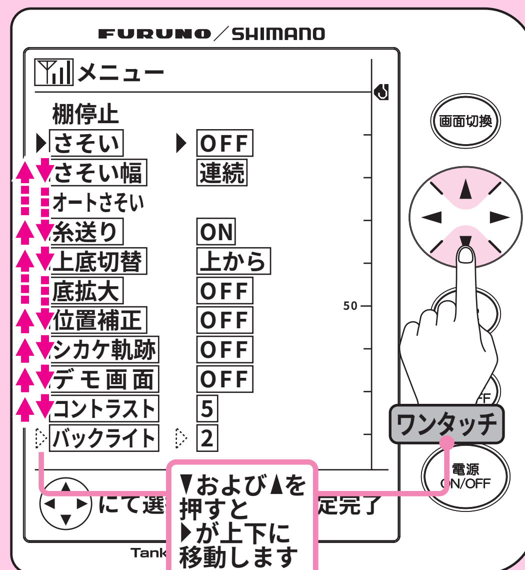
探見丸のバックライトを調整します。（4段階）

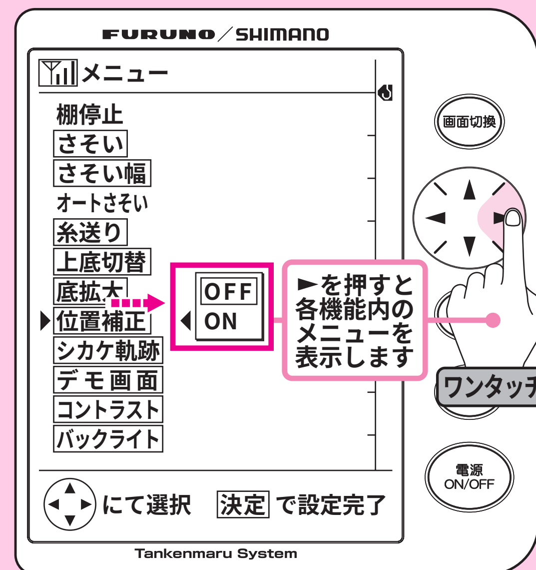
メニュー画面から共通の操作で機能の設定・変更ができます。

必要に応じて下記の操作方法を参照してください。設定可能な機能は前のページをご覧ください。
（危険防止のために、モーターOFF時のみメニュー画面に入ることができます。）

メニュー画面の基本的な操作



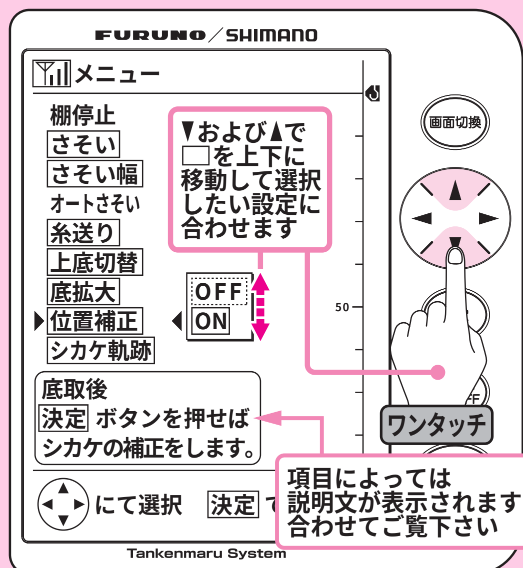




1 魚探画面より、モータが停止した状態で画面切換ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
□囲みが現在使用可能な機能とその設定です。
電動丸の機種によって使える機能は異なります。
図の設定は例として表示しています。
設定途中にモーターをONしたり、再度画面切換ボタンを押した場合は、設定の変更が行われず、魚探画面に戻ります。

2 ▼および▲を押して▶カーソルを上下に移動させ、設定したい機能の行に合わせます。

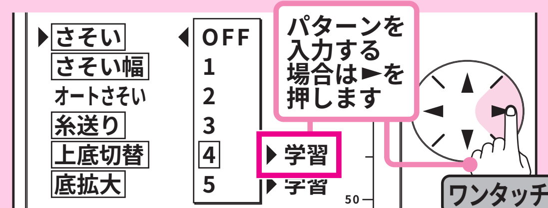
3 ►を押すと各機能内のメニューが表示されます。
メニュー内の□囲みが現在の設定です。
表示されるメニューの内容は選択した機能によって異なります。図は[位置補正]を選択した場合を例としています。



詳細設定を行う項目について…

● [さそい]→[4]･[5]

さそいパターンの入力が可能です。初回選択時、あるいは新しいパターンを入力したい場合は ► を押します。（図は[4]の場合です。）

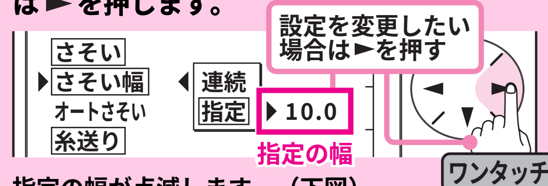


[学習]が点滅します。（下図）

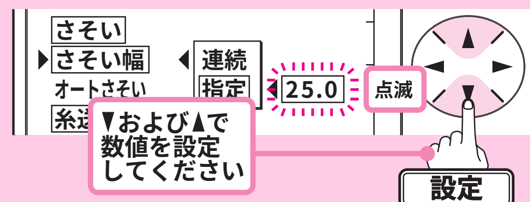


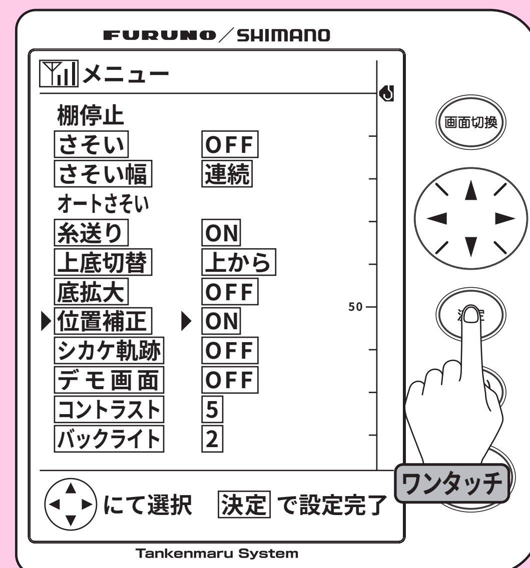
● [さそい幅]→[指定]

現在の指定の幅（□部分の数値）を変更する場合は ► を押します。



指定の幅が点滅します。（下図）
▼ および ▲ を押すと数値が増減しますので、お好みの幅（m）に設定してください。



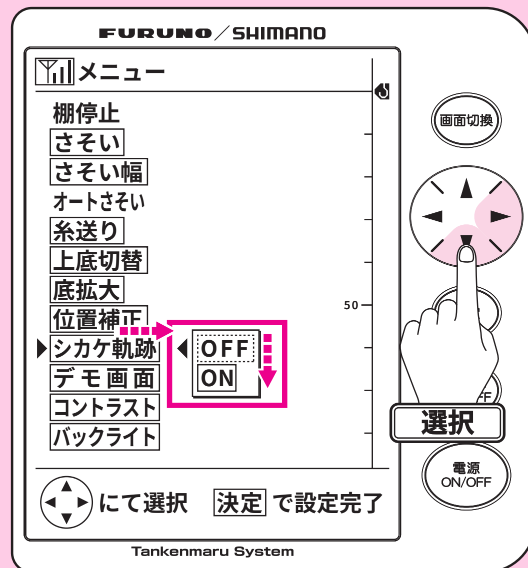


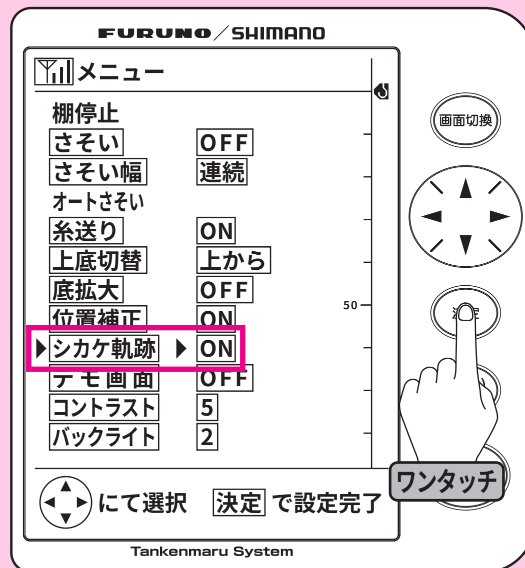
4 ▼および▲を押して□を上下に移動させ、設定を選択します。
右記の項目を選択された場合、さらに必要に応じて詳細設定を行ってください。
詳細設定を行わない場合はこのまま **5** の操作に進みます。
（[さそい]→[4]･[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。）

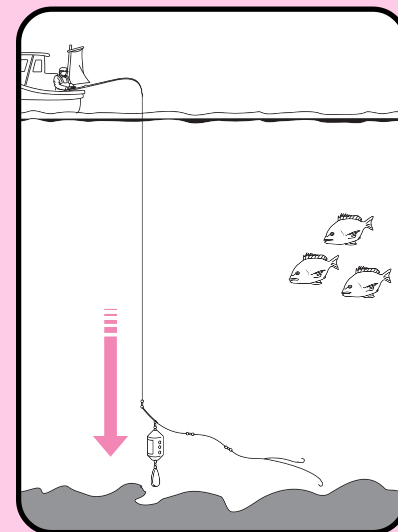
5 決定ボタンを押せば設定完了です。
[さそい]→[4]･[5]→[学習]を選択した場合のみここでさそい学習画面になります。以後のさそい学習の手順は46～48ページ「さそいの準備（さそいパターンの入力）」**3** ～ **5** をご覧下さい。
その他の場合はメニュー画面に戻ります。
続けて設定を行う場合は **2** からの操作を繰り返します。
魚探画面に戻る場合は、画面切換ボタンを押します。
決定ボタンを押さずに魚探画面に戻った場合、設定の変更は行われません。

投入したシカケの軌跡を表示することができます。

底の形状とシカケ位置の相関がたどれますので、どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握できさそいの目安や、次回投入時の参考、コマセのタイミング等に便利です。
※先にシカケ位置補正を行うと、より正確な表示となります。







シカケ投入

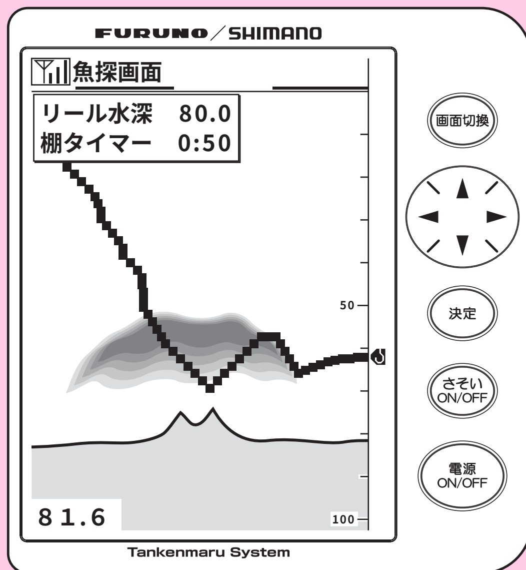
1 メニュー画面で[シカケ軌跡]→[ON]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは40～41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

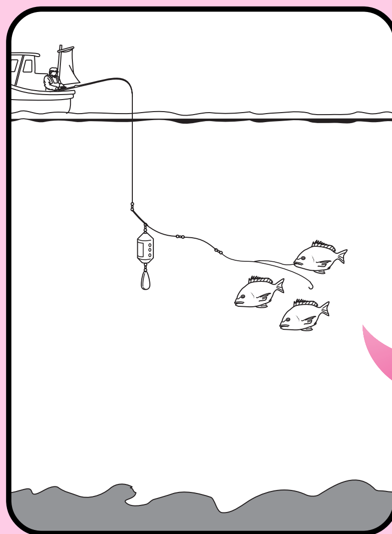
ご注意　シカケ軌跡はリール水深をトレースしています。従いまして糸巻学習、0セットを正確に行っておりませんと、正しい表示を行えませんのでご注意ください。

2 決定ボタンを押して設定を完了します。
シカケ軌跡がONになります。

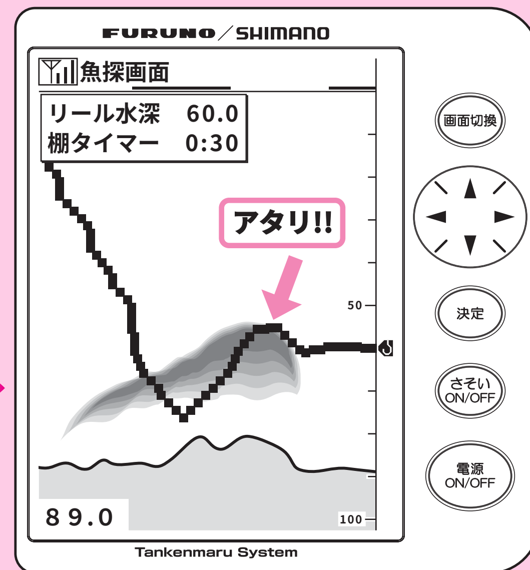
3 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入します。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





アタリ!!



4 シカケマークの位置をトレースして、魚探画面上に軌跡が表示されます。

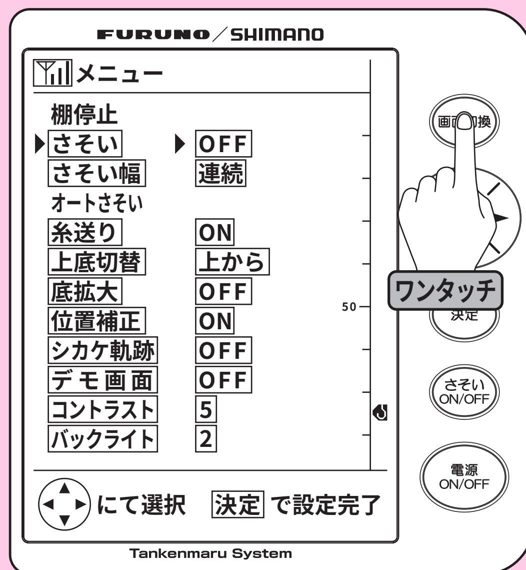
5 アタリがあった状況が一目で判ります。
さそいの目安や、次回投入時の参考、コマセのタイミング等、応用範囲が広がります。

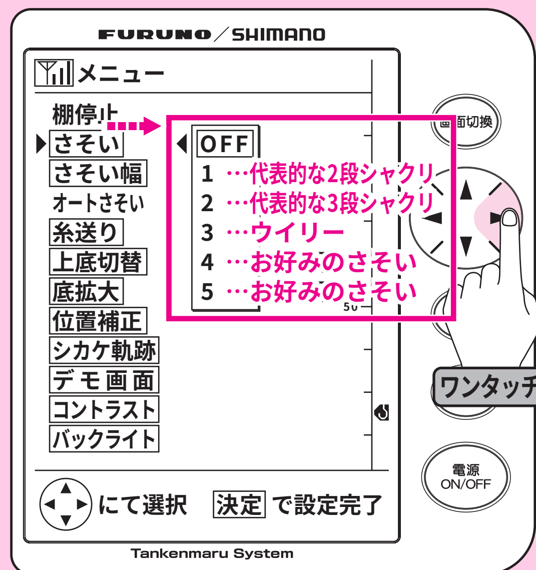
探見丸システム　さそいの準備



探見丸の記憶しているさそいパターンで、電動丸がさそい動作を再現します。

一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。
代表的なさそいパターン、またはお好みのさそいパターンが再現できます。





● [さそい]メニューの一覧

[1]… 代表的な2段シャクリ
[2]… 代表的な3段シャクリ
[3]… ウイリーの代表的なさそい
[4]… お好みのさそいパターン
[5]… お好みのさそいパターン

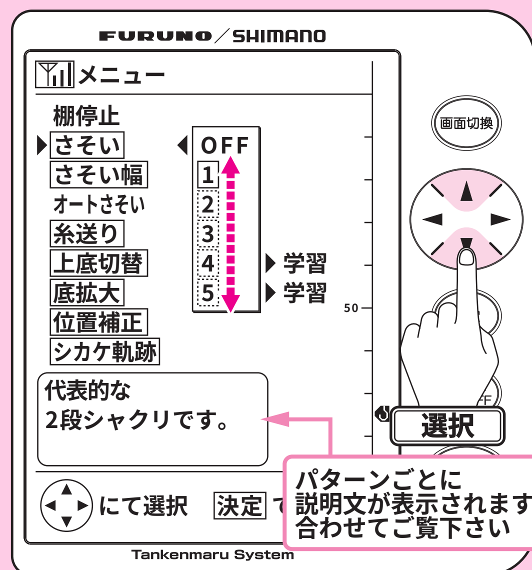
※ご注意
あらかじめ記憶しているさそいのパターンは代表的な例であり、竿の調子･オモリ負荷･水深等、条件によって動作は変化します。
実情に合わない場合はお客様オリジナルのパターンを入力の上、再現される事をお勧めします。

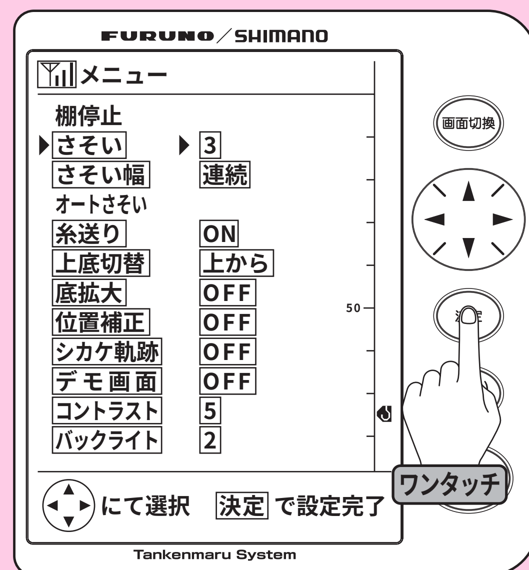
1 魚探画面より、モータが停止した状態で画面切換ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
▶カーソルが[さそい]の行にあることを確認します。
[さそい]の行にない場合は▼と▲で合わせてください。（メニュー画面の操作について、詳しくは40〜41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

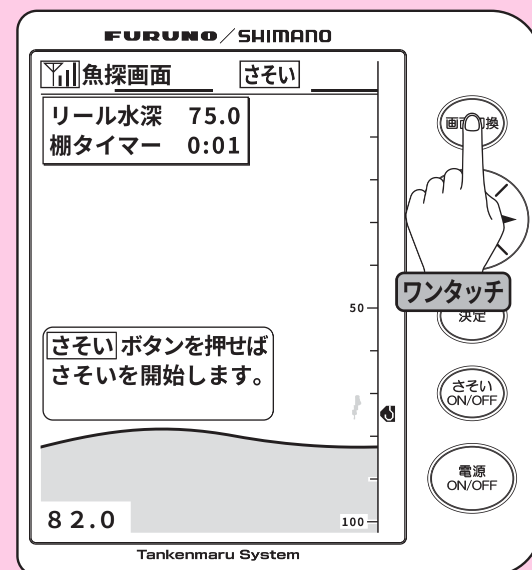
2 ►を押すと[さそい]のメニューが表示されます。

[1]〜[3]は上記のさそいパターン、[4]と[5]はお好みのさそいパターンとなっています。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。







3 ▼と▲でさそいパターンを選択してください。

([さそい]→[4]･[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。)

[4]･[5]に新しいパターンを入力し直す場合は、ここから次ページ「さそいの準備（さそいパターンの入力）」へお進みください。

4 決定ボタンを押せば設定完了です。

メニュー画面に戻ります。
図は[3]を選択した場合です。
他の設定や、さそい幅の指定(49ページ参照)を行いたい場合はあらかじめ設定しておくか、ここで設定しておきます。

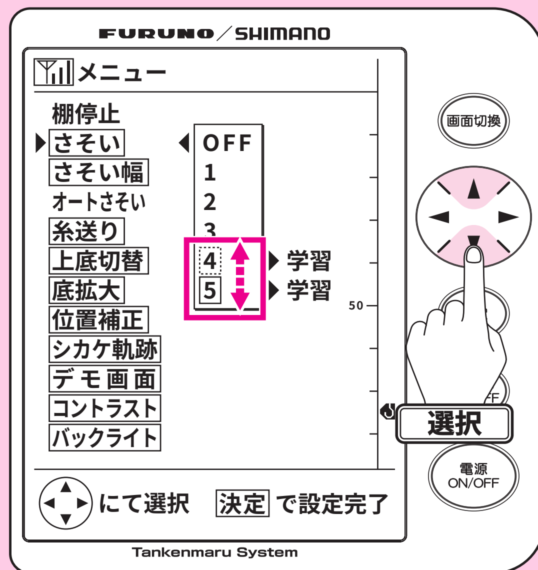
6 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻ると表示は図のようになります。

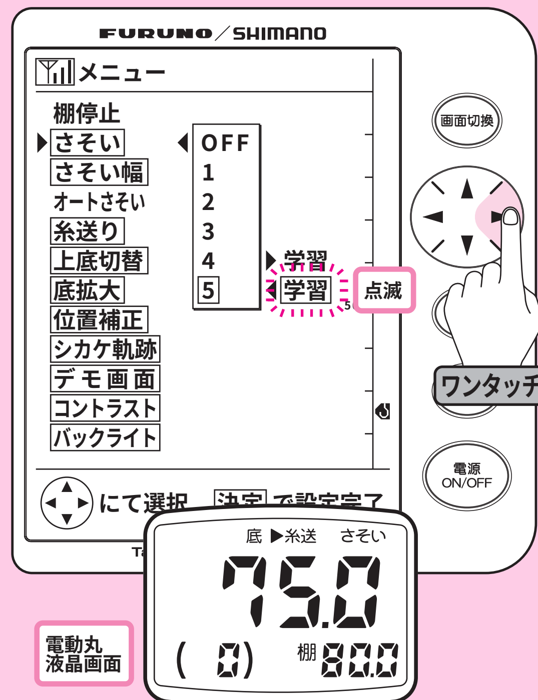
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。

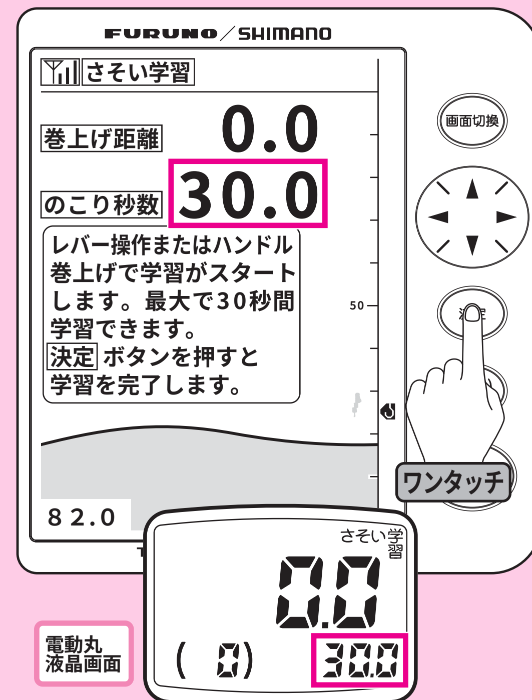
さそいを開始する場合は50ページ「さそいの再現方法」へ進みます。

あなたのオリジナルのさそいパターンも再現できます。

電動丸にお好みのさそいパターンを再現させたい場合は、下記の操作で探見丸にさそい動作を入力します。







1 前項の 1 ～ 3 の手順で、さそいパターンの[4]か[5]を選択しておきます。

2 ►を押してください。

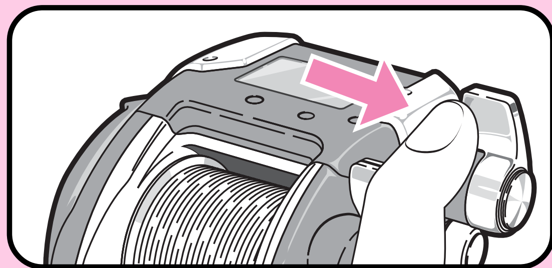
3 決定ボタンを押すとさそい学習画面になります。さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。

□部分に記憶可能な秒数が表示されます。
スプールが巻き上げ方向に回転すると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

●テクニカルレバーで入力する場合…

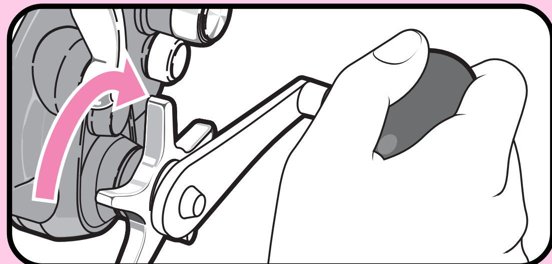
記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

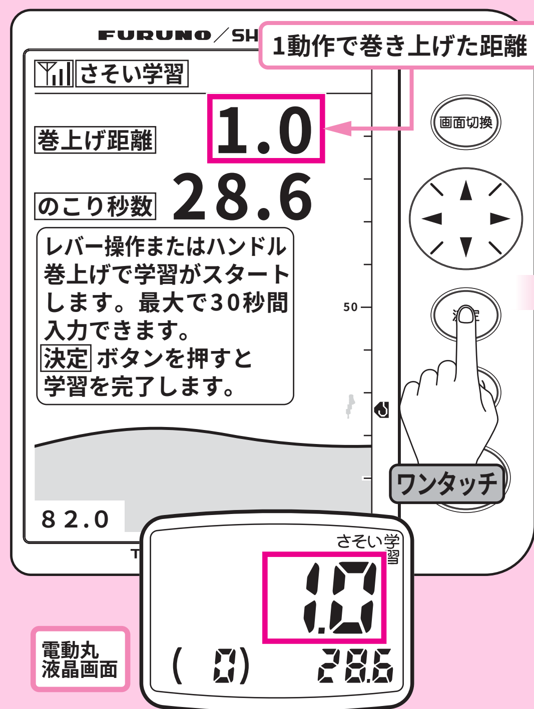


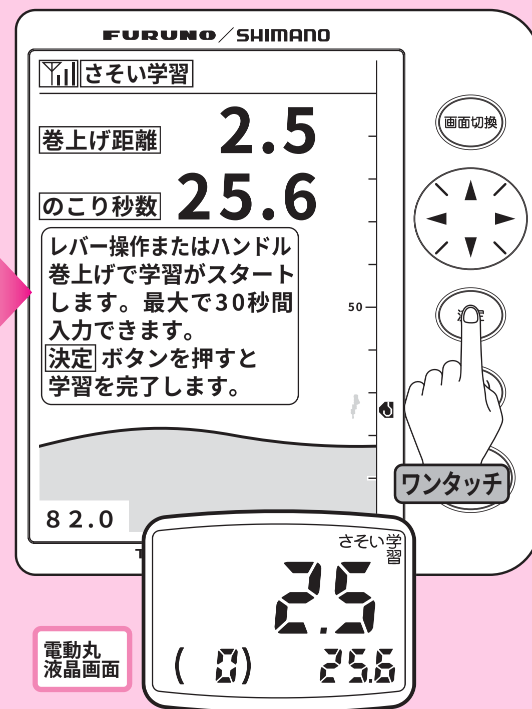
●ハンドルで入力する場合…

好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。
また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。







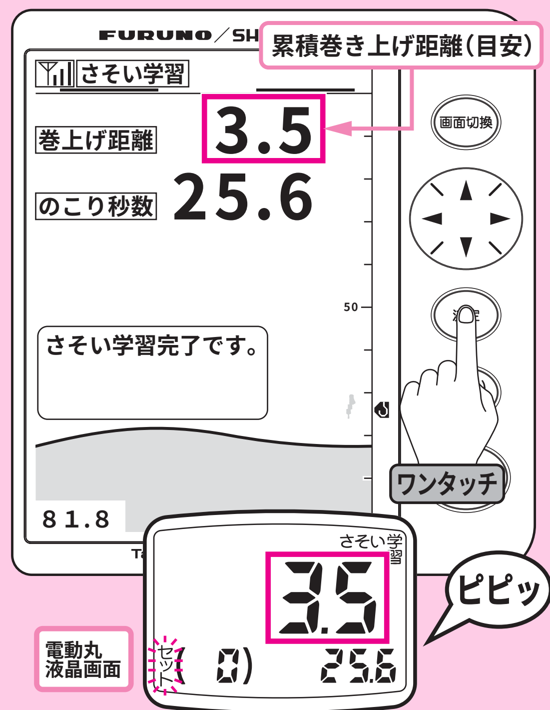
3 テクニカルレバーかハンドル操作でさそい学習を開始します。

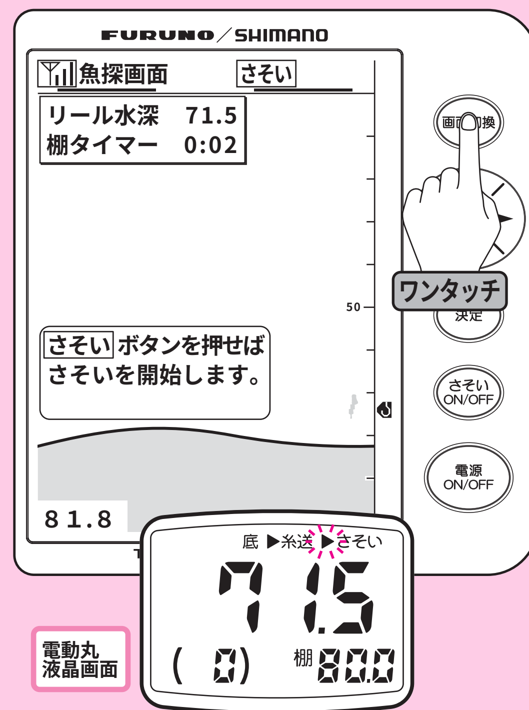
記憶可能な残り秒数のカウントダウンが開始し、□部分に１動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

図はテクニカルレバーで巻き上げた距離と、最大30秒の記憶秒数から4.4秒経過したところを表しています。

次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





4 決定ボタンを押せばさそい学習が完了します。

決定ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。
カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。
さそい学習終了時の表示は図のようになります。
□部分に目安ですが、累積巻き上げ距離を表示します。

5 2秒後、自動的に魚探画面に戻ります。

図のように表示されます。電動丸側の「さそい」横に▶マークが点灯します。
※新たにさそい学習を入力しますと、前の学習データは消えます。

他の設定や、さそい幅の指定(49ページ参照)を行いたい場合はあらかじめ設定しておくか、ここでメニュー画面に切り換えて設定しておきます。
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は50ページ「さそいの再現方法」へ進みます。

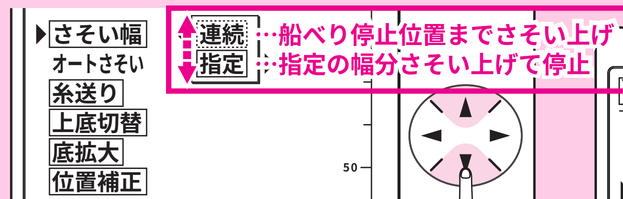
必要に応じて、さそい再現を行う幅の指定ができます。

さそい幅を指定すると、さそい再現時にさそい幅分さそい上げて停止するようになります。
再度さそい再現を開始するたびに、さそい幅分をさそい上げて停止します。



1 メニュー画面で[さそい幅]を選択し、►で[さそい幅]のメニューを表示させます。
（メニュー画面の操作について詳しくは40～41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）各メニューで下記の設定ができます。

> [連続]…
> 船べり停止位置までさそい上げます。
> [指定]…
> 図の指定の幅(m)分さそい上げて停止します。

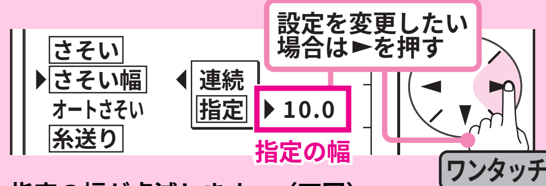


▼と▲で選択してください。

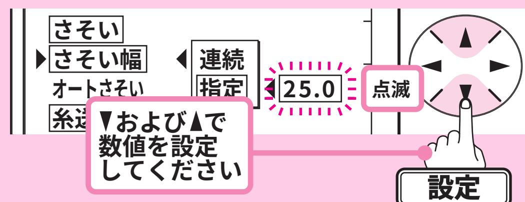
[指定]を選択した場合に、指定の幅を変更したい時は下記の要領で行います。

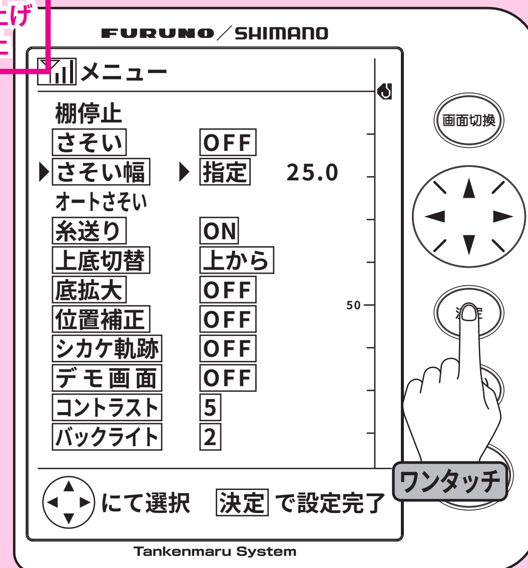
指定の幅の変更方法

►を押してください。



指定の幅が点滅します。（下図）
▼および▲を押すと数値が増減しますので、お好みの幅（m）に設定してください。



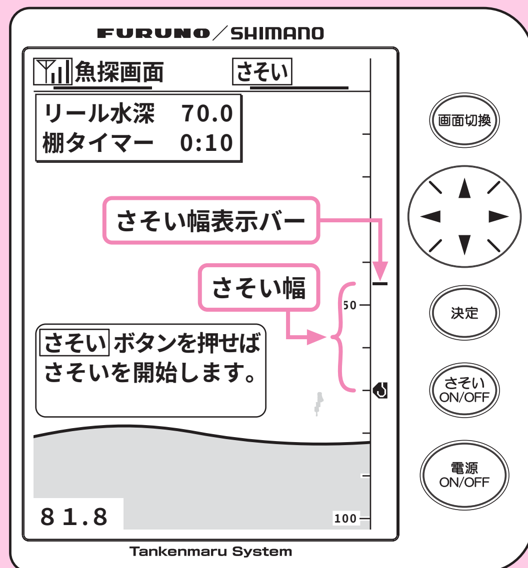


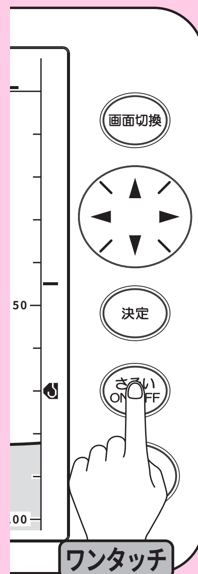
2 決定ボタンを押せば設定完了です。
メニュー画面に戻ります。
[指定]を選択した場合、図のように指定の幅が表示されます。

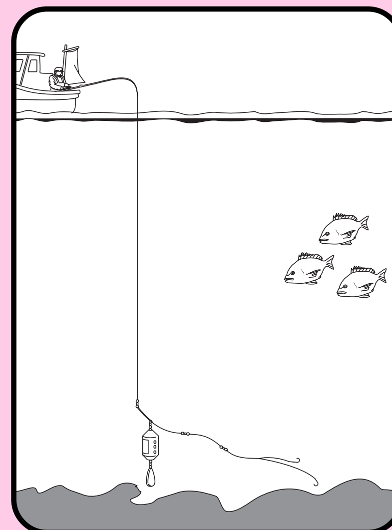
探見丸システム　さそいの再現方法



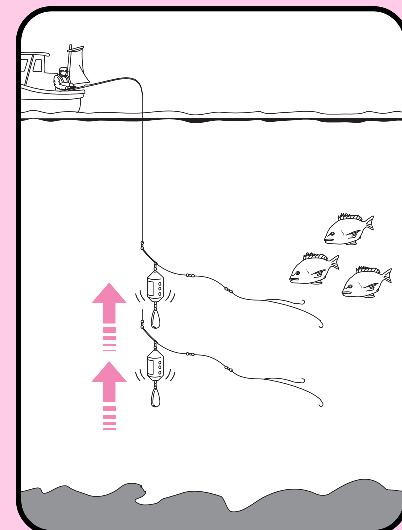
さあ！いよいよ設定したさそいを再現してみましょう。







さそいボタンON
さそい開始！

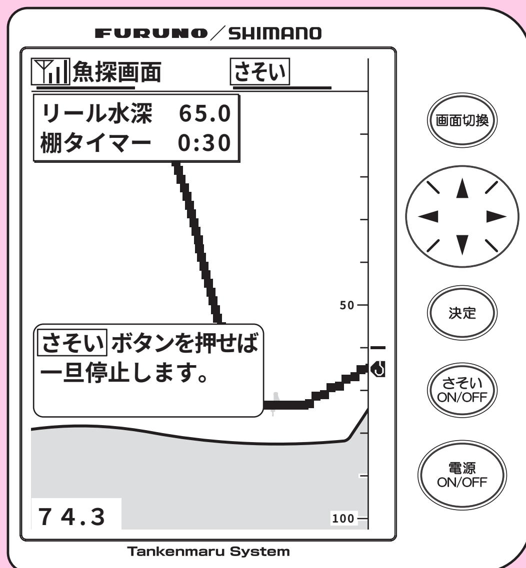


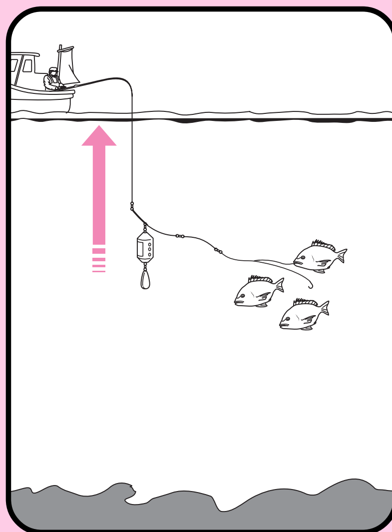
さそい動作再現中

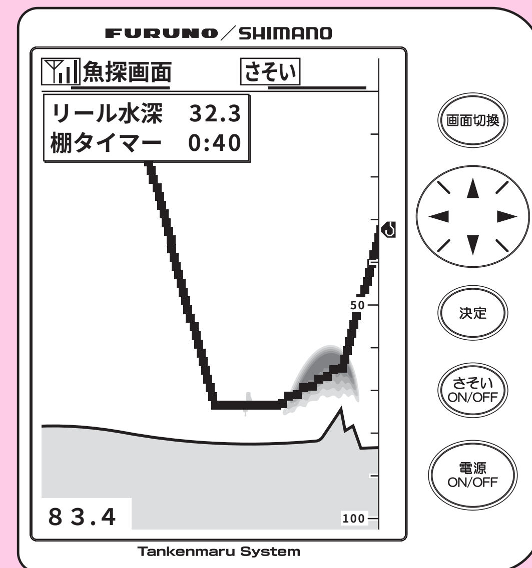
1 あらかじめ44～49ページ「さそいの準備」を行っておきます。
魚探画面になっていない場合は画面切換ボタンで魚探画面に切り換えてください。
表示は図のようになっています。（数値や設定は例として表示しています。この場合、さそい幅は25mです。）

2 **さそいボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。**
さそい幅を指定している場合は、指定の幅分さそいパターンをくり返して停止します。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいボタンを押します。
さそい幅指定で途中停止した場合も、さそいボタンを押した水深からさそい幅分をさそい上げて停止します。

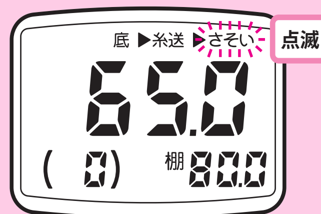
注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。




アタリ! 巻き上げ



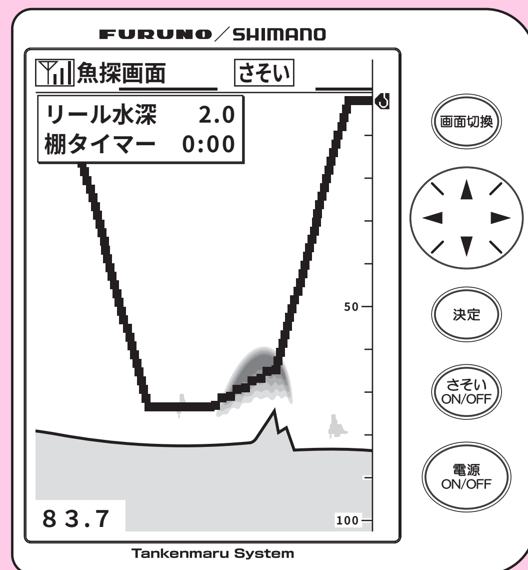
さそい動作中の表示は図のようになります。
（画面は[シカケ軌跡]をONにした場合です。）
電動丸は「さそい」表示が点滅します。

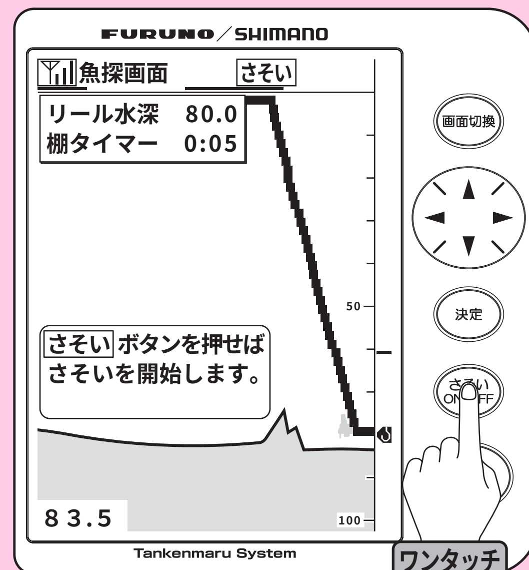


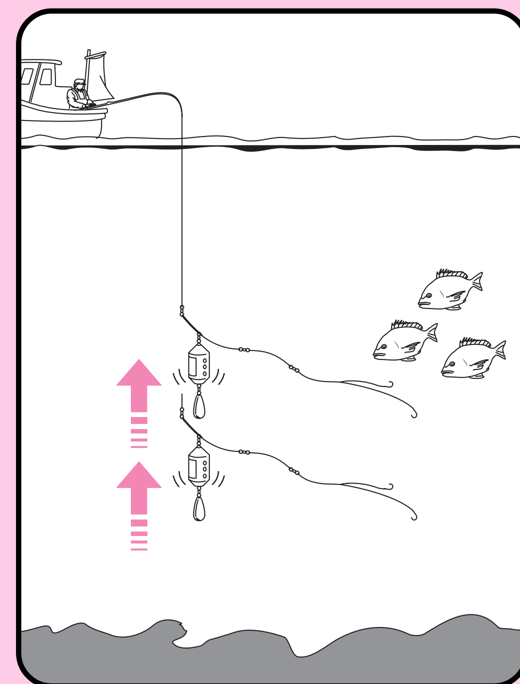
3 **アタリがあればテクニカルレバーか速巻きボタンで巻き上げます。**
この場合、さそい幅は無視されます。
巻き上げ途中の表示は図のようになります。

次ページにつづく

魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして さそい動作を行いましょう。







さそいボタンON
再びさそい開始!

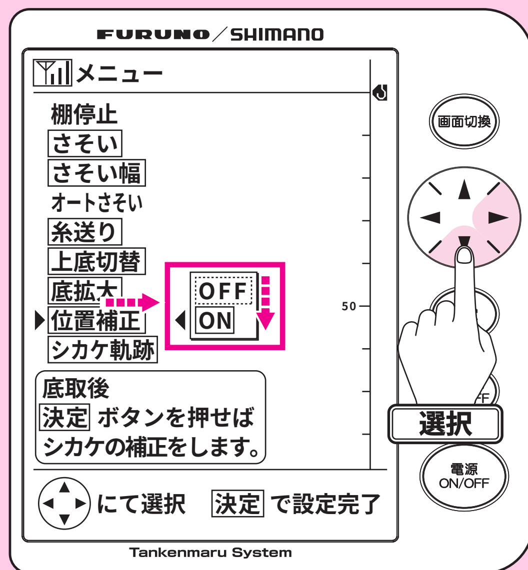
4 さそい再現で船べり停止した時の表示は図のようになります。
このままさそい再現を続ける場合は再度投入します。
やめる場合はメニュー画面を呼び出し、[さそい]メニューより[OFF]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは40～41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

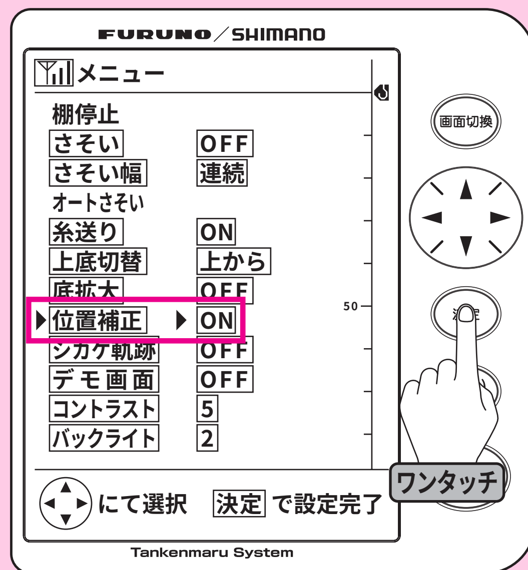
5 さそい再現を続ける場合、シカケをもう一度棚までおろします。
図は80mまでシカケをおろした場合の例です。
さそいボタンをONにすると、再度記憶した巻き上げをくり返し行います。

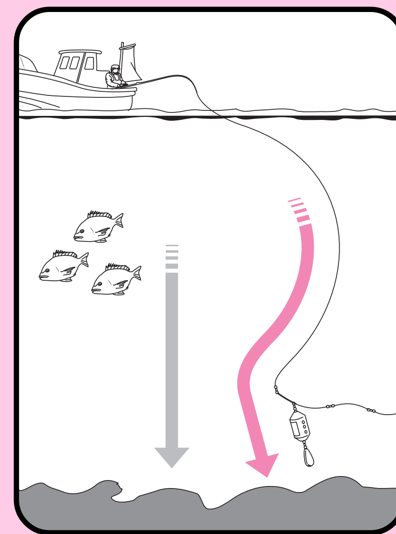
探見丸システム　位置補正

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。

**従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり
潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。
探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。**







シカケ投入・底取り

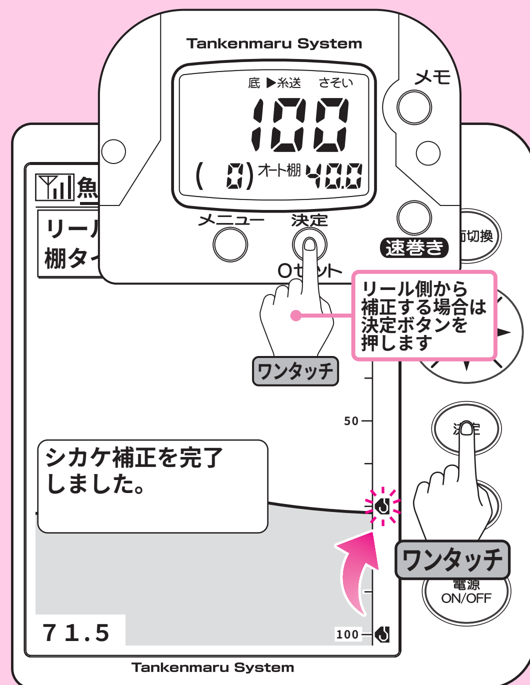
1 **メニュー画面で[位置補正]→[ON]を選択してください。**
（メニュー画面の操作について、詳しくは40～41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

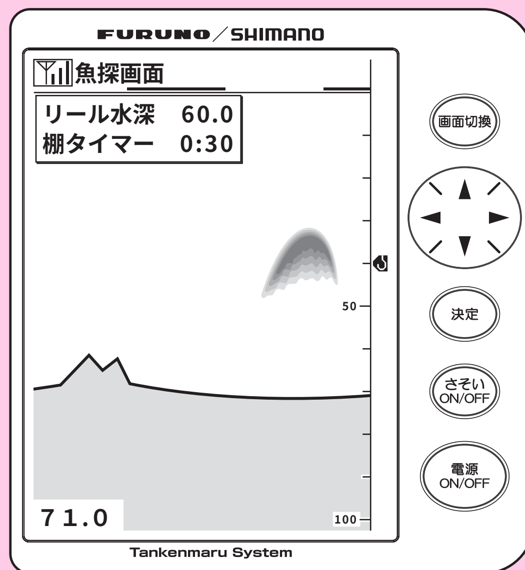
2 **決定ボタンを押して設定を完了します。**
位置補正がONになります。

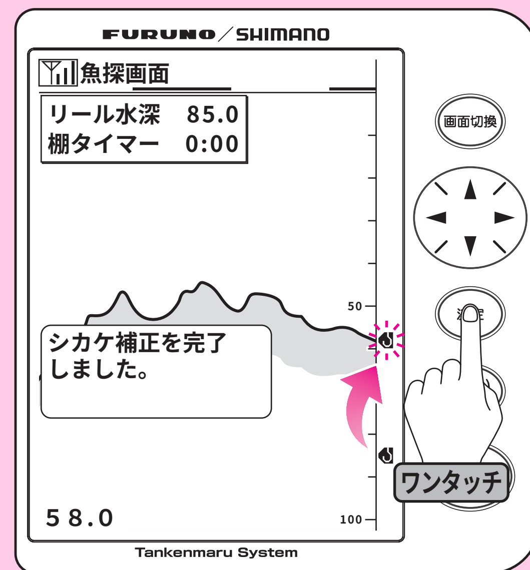
3 **画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入し、いったん底まで降ろします。**

次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。







4 底取りできましたら、決定ボタンを押します。シカケマークが底の位置に表示されます。リール側からも補正する事ができます。その場合、底取りできましたらリールの決定ボタンを押します。（3秒以上押さないでください。）

ご注意!! リールの決定ボタンを3秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻学習を行ってください。

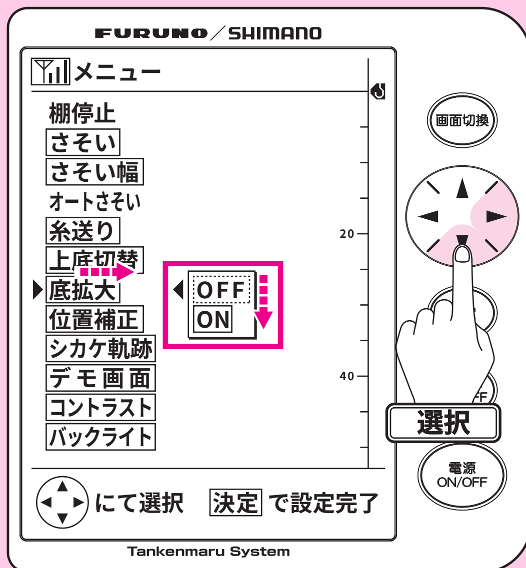
5 以後、希望の水深にシカケマークを合わせれば、シカケは実際その位置に来ていることになります。

6 釣場を移動したり、画面とマークが一致しなくなってきた場合には、再度底取りをしてから、決定ボタンで再確定してください。

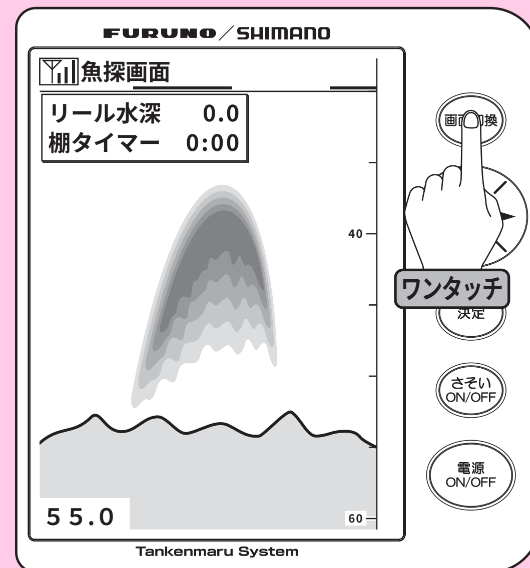
位置補正が正しく行われていない場合、シカケマークが画面から消える事があります。
その際にはシカケを再度投入し、底取りを行った上で再度位置補正を行ってください。

探見丸システム　底拡大

魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大します。
海底付近の魚群を把握するのに便利です。







1 メニュー画面で[底拡大]→[ON]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは40～41ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

2 決定ボタンを押して設定を完了します。
底拡大がONになります。

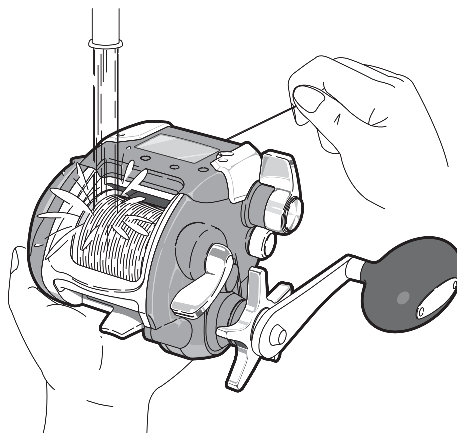
3 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大して表示します。

お取り扱い上の注意

電動丸は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。
また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

1. まずドラグをしっかり締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を2〜3m出します（右図参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。



4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ご注意
A-RB（耐塩水ベアリング）は錆び難いベアリングです。ベアリング内部に塩水が侵入する（塩カミ）のを防ぐものではありません。

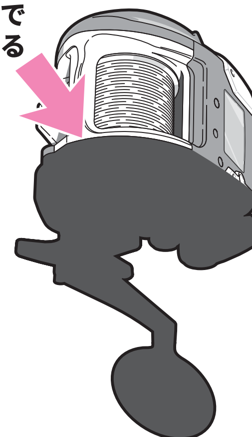
※ベアリングの塩カミについて
基本的なメンテナンスを怠ると、ベアリング内部に塩水が残り、乾燥して塩カミを起こす恐れがあります。錆びている訳ではありませんが、同様に音鳴り、ゴロ付き等の症状が出ます。乾燥した塩を払拭する事は殆ど出来ません。例えA-RBであっても、完全な解消方法はベアリングの交換しかありません。ご注意下さい。

※保管の際は必ずリールからコードを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法
（スプール回転性能に低下が見受けられた場合）

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合（リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合）

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて（右図参照・リール全体を浸水させないでください。）スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。



2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
（リール内部に溜まった水を完全に排水させます。）

3 ご使用上の注意

●探見丸システムでは、親機の探知性能以上の水深の場合や、泡切れで親機が海底水深をキャッチできない場合があります。また、大魚群を海底と誤ってしまう場合があります。この時には水深情報を利用する各機能が使えないことになりますのでご注意ください。
●探見丸では魚探映像の感度、レンジの変更は行えません。
●探見丸は無線電波を受けているため、金属の箱などに入れると受信できなくなりますのでご注意ください。

●ご注意
船長の指示棚は絶対に守りましょう!!
探見丸の画面上に指示棚以外にも反応が映っているからといって、勝手に大きく棚を変えるのはルール違反です。
船長の指示棚は、長年の経験から導きだした、その場の状況に応じた最適な情報なのです。
自分勝手に大きく棚を変えると、他の釣客とのオマツリや魚を散らす原因になるなど、トラブルの元です。絶対にやめましょう!!

●根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
●リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
●リールは落としたり衝撃を与えないよう、ていねいに扱ってください。
●船の竿立てに収められる時は、リール後部及び電源コードに衝撃を与えないよう、また、コードを折り曲げないようご注意下さい。特にコードをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。
●偏光グラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。

●リール本体に電源コードで電源を接続した時に、バックランプのみ点灯して液晶画面が表示されない場合は、電源コードのコネクターかワニ口クリップを、一旦外して再度接続していただきますと画面表示いたします。

この電動丸はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。
ご使用になる際は弊社、電力丸 8.8 A（BT-023E）をご使用になるようお勧めいたします。
弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A（BT-021B）をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合が御座います。
（その場合、電動丸の液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

次ページにつづく

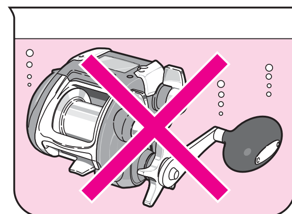
●糸巻量誤差による穂先破損のご注意
カウンターの数値と実際の糸の出た長さでは最大±3%の「誤差」が生じる場合があります。

電動リールに300mの糸を巻き、300m目いっぱいご使用された場合には最大9mの「誤差」が生じる場合が出てきます。
0セットの位置が穂先に近ければ近いほど、この誤差が出た場合にシカケを巻き込み、穂先の破損へとつながる場合がありますのでご注意ください。

＊ライト深場でご使用される場合の裏技！
近年流行ってきているライト深場でご使用される場合、300m前後でのご使用がメインとなってきます。この場合、誤差は9mと大きく、糸に掛かるテンションもめまぐるしく変化します。ご使用される竿も深場専用の竿ではなく、イカ竿等穂先の繊細な竿となりますので、電動リールをそのままでご使用されますと、シカケを巻き込んで穂先の破損となる可能性が非常に高くなります。
そこで、裏技の登場です。まず、ご使用される竿に電動リールを取り付け、竿に糸を通します。通した糸にスナップサルカン等を結んでもらい、10m程度糸を出した状態にし、その後、電動リールに電源ケーブルを接続します。
そうしますと、電動リールのカウンターは0.0mとなっておりますが、実際は10m出た状態となります。電動リールの糸巻学習をちょっとごまかす手法です。この方法で0セットを行わなければ糸巻学習自体に狂いは出ませんので、次回実釣でご使用される際にはそのままでご使用されても何ら問題はありません。
（この裏技でご使用の場合は絶対に0セットを行わないでください。次回の実釣の際、余りに誤差が大きい場合はお手数ですが再度糸巻学習を行ってください。）

4 お手入れの方法

●保管の際は必ずリールからコードを外して保管してください。
●コネクター部の腐食防止のために、リールを使用にならない時は防水キャップをしてください。
●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
●ドラグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。
●ドラグ焼けについて
電動リールのモーターをONにしたまま、全く糸が巻けない状態（ドラグがすべっている状態）を続けますとドラグが非常に高温となり、最終的にはリール内部の部品が破損する場合がございますのでご注意ください。
●高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。
●ハンドルグリップには滑りにくい特殊な材料を採用しておりますので、オイル・グリス等が付着した場合は中性洗剤などで洗い流してください。
●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。
（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）

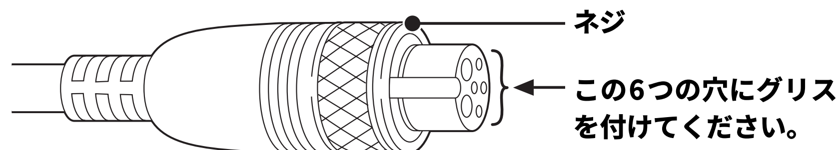


●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう特別のグリス（下記）を作成しました。図（右ページ上）の箇所に付けていただくようお願いします。

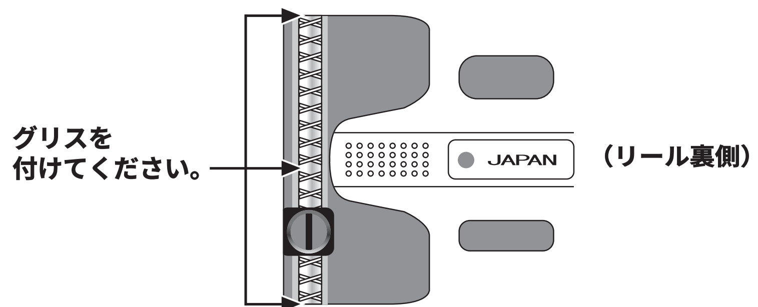
シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

〈前ページより続く〉

＊電源コードの端子の6つの穴（リール本体側の電源コードの端子にも塗布していただくとより効果的です。）



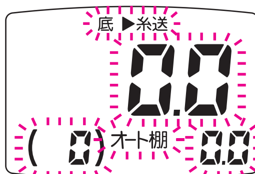
＊クロスギヤ軸とクロスギヤ軸両側



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

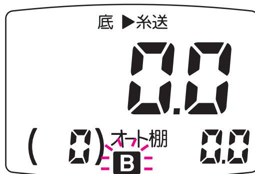
モーターに過負荷がかかった場合、モーターを保護するためにブレーカーが働きます。
ブレーカーが作動した時は右図のように全表示が点滅します。



※注意　この時、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに5分以上休ませてください。（この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。）点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。

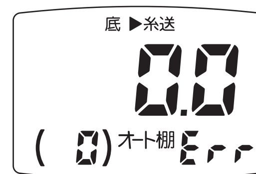
●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V以下になった場合、またはコード・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字が点灯します。
絵文字が点灯しましたら、コード・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」ページを参照していただき、修理に出してください。



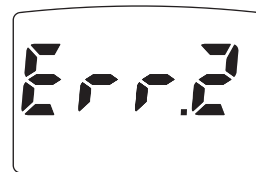
※下記の Err 表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

●電圧が高すぎる場合



DC20V以上の電圧がかかると上図のように表示されます。ご使用の電源が12V～16.8V仕様かどうかお確かめください。

●糸巻学習操作が不正確な場合



糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

6 仕様

実用最大ドラグ力

15.0kg
147.0 N

シマノの船リールで表示している最大ドラグ力は、人間が片手で締め込める力を25kgとし、そのときのドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

最大巻上速度

170m/分

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

実用巻上速度

1kg（負荷）	2kg（負荷）	3kg（負荷）
149m/分	139m/分	126m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば3000番のリールなら6号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は12.5V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

実用巻上持久力

5.5kg
53.9 N

長時間耐久維持できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

品番	製品コード	商品コード	ギヤ比	自重(g)	糸巻量(号-m)デュラPE使用	最大巻上長(cm/ハンドル1回転)	電動巻上速度(m/分)	スプール(径mm/幅mm)	ベアリング(A-RB/ローラ)
電動丸3000ビーストマスター	RG223100	02132	3.9:1	770	4-400 5-350 6-300 8-200	70	速巻き170 +レバー操作による30段数	57/46	2/1

●標準付属品　コード、布袋、取扱説明書、分解図、グリススプレー、糸通しピン、下巻きゲージ、保証書

故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーと電源コードの（＋）（－）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.8
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.9～P.19
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.9～P.19
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.9～P.19
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることにより カウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 0m～1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.24～P.25 P.28
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 また、リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。	P.8
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。 船電源の端子や、リールや電源コードのコネクター部分がサビていると、通電不良を生じます。 サビを落としてからもう一度ご確認ください。	P.8
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、 このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障は御座いませんので安心してご使用ください。	

以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった小売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内／サービスネット

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

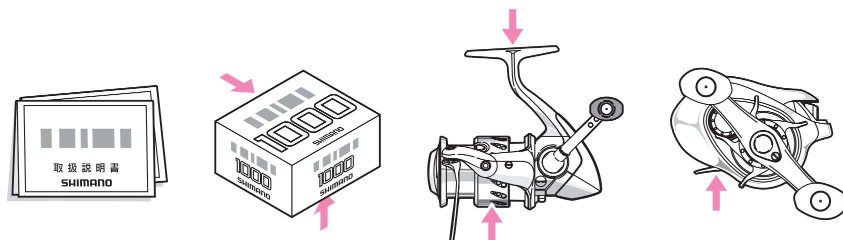
●修理に出されるときには、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。
また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。
修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店もしくは最寄りの販売店にご注文ください。
（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお薦めします。）

例／製品名　　：ステラ1000S
商品コード：02080　　部品番号　：2
製品コード：SD34B012　　部品名　　：スプール

●この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後６年間としています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。

●商品コード/製品コードの位置
取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上５ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　北海道営業所
〒001-0925　札幌市北区新川5条1-3-50　TEL.(011)716-3301
株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町2-17-10　TEL.(022)232-4775
株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043　埼玉県上尾市西宮下3-194-1　TEL.(048)772-6662
株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013　東京都大田区大森南1-17-17　TEL.(03)3744-5656
株式会社シマノ　静岡営業所
〒410-0807　静岡県沼津市錦町674　TEL.(055)962-3983
株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012　名古屋市中川区尾頭橋2-6-21　TEL.(052)331-8666
株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577　大阪府堺市堺区老松町3-77　TEL.(072)223-3920
株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941　岡山市青江6-6-18　TEL.(086)264-6100
株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014　香川県観音寺市流岡町1496-1　TEL.(0875)23-2220
株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048　佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6　TEL.(0942)83-1515
シマノ臨海株式会社　釣具サービス課
〒592-8331　大阪府堺市西区築港新町1-5-15　TEL.(072)243-2851

株式会社 シマノ釣具事業部
本　社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
●探見丸システムに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-651130
受付時間：AM9:00〜12:00・PM1:00〜5:00（土･日･祝日除く）
●商品の性能、スペック、カタログ、イベントや商品の修理、パーツなどアフターサービスに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-861130（ハローイイサオ）
フリーダイヤルをご利用できない方は 072-243-8538（有料）をご利用下さい。
受付時間：AM9:00〜12:00・PM1:00〜5:00（土･日･祝日除く）
■シマノホームページ アドレスは http://www.shimano.com です。
新製品情報・気象情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。
また、カタログのお申し込みも受け付けています。
■シマノi-mode情報 アドレスは http://fishing.shimano.co.jp/i/ です。
商品情報・イベント情報・釣りに役立つ情報等をいち早くお届けします。

Printed in Japan　035 t

安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警 告



●電動リールを使用されますと微弱な電波が発せられ、補聴器、ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。
特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目眩が起こる場合がございますので、本製品のご使用前に必ず当該各医用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

●糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。
指をはさまれて、けがをするおそれがあります。

●ハンドルとボディーの間に手をはさむと、けがをするおそれがあります。



●バッテリー、船電源の所定電圧（ＤＣ１２～１６.８Ｖ）以外を使用しないで下さい。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手をやけどするおそれがあります。

⚠ 注 意



●回転しているスプールには触れないで下さい。
けがをするおそれがあります。



●電動リールは分解・改造等はしないでください。
故障や事故につながる原因となります。

モーターの誤作動についてのご注意

●電動丸表示部は１０ｍの耐水圧性能により防水が確保されています。
しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、電源コードを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。

●本電動丸の使用電源保証範囲はＤＣ１２～１６.８Ｖまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。



この説明書は再生紙を使用しています。

SHIMANO

●糸通しピン

(070920)